



## シンニチ工業株式会社における食堂と会議室のリノベーション計画

橋本研究室 設計 戸嵩ひかり 堀毛星来







## 01 ものづくりの起点

シンニチ工業株式会社は、愛知県豊川市に本社を構える、ステンレス・鉄・チタンなどの大径薄肉パイプの製造販売会社である。高い加工精度と技術力を強みとし、長年にわたり多彩な分野のものづくりを支えてきた。今回私たちは、穂ノ原工場の食堂と会議室のリノベーション提案を行う。

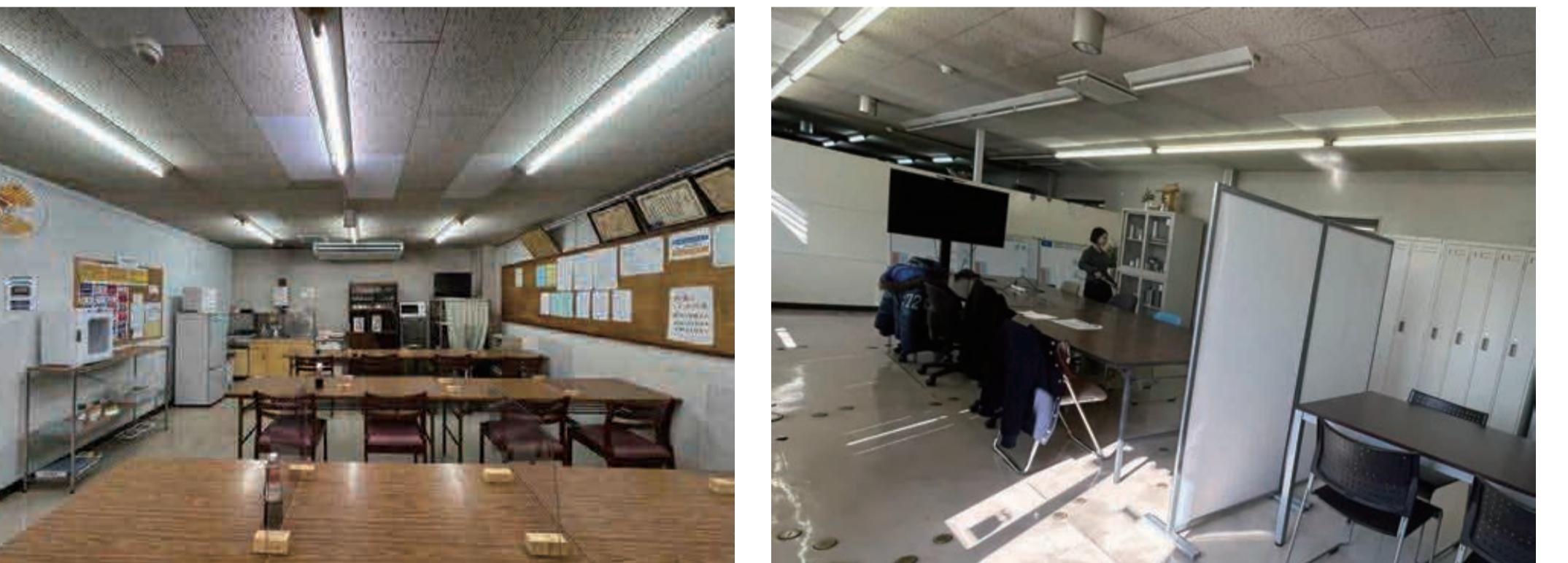


## 02 敷地



## 03 設計対象

○穂ノ原工場 2階の食堂（左）・会議室（右）



○家具の選定とレイアウト

○空間の使用方法

## 04 空間の読解

食堂と会議室は間仕切りで分けられているが、音や匂いの干渉が生じておらず、空間としての独立性は十分に確保されていない。また、薄暗さと冷たい空気感が、滞在の心地よさを損ねている。そのため、用途ごとに過ごし方の切り替えしがしにくく、居場所としての魅力が十分に引き出されていないと感じた。

## 05 設計意図

生産活動を支える場としての機能性に加え、働く人が心身を切り替えられる「真のリフレッシュ空間」を設けるとともに、自然な交流が生まれる環境を整えることで、社内コミュニケーションの活性化と企業としての魅力向上を図る。

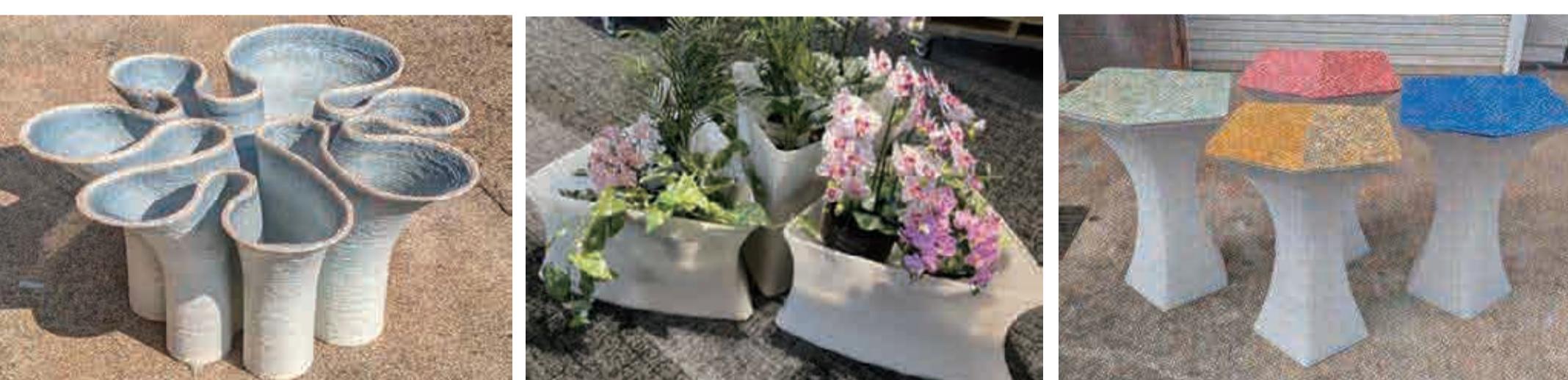
また、パイプを用いたデザインを通して、企業の姿勢や価値観を表出させ、来訪者にも魅力が伝わる、内外に開かれた拠点とする。

食堂・会議室それぞれの主目的を満たすだけでなく、用途を重ねることで業務と休息が緩やかに繋がり、働く人それぞれにとって心地よい居場所となることを目指した。

## 06 協働会社

○株式会社 Spacewasp

様々な業界から排出される植物ごみを回収し、持続可能な植物由来のマテリアルへと交換する革新的な企業である。植物廃棄物と3Dプリンターを活用し、サスティナブルなインテリアを提案する。今回の提案では、家具や装飾の一部に活用予定である。



○株式会社荒川工務店

平家や戸建、二世帯住宅をクライアントや建築家に寄り添いながら手掛ける工務店である。今回の提案では、施工を担当していただく。

## 07 階層間の関係性



先輩がリノベーションを行った1階のオフィスと、今回私たちが手がける食堂・会議室に連続性を持たせた。1階左側の壁面に用いられた青の要素と、右側のパイプによる装飾を、空間全体へと展開する構成としている。階を超えて要素が重なることで、建物全体に一体感を与える。



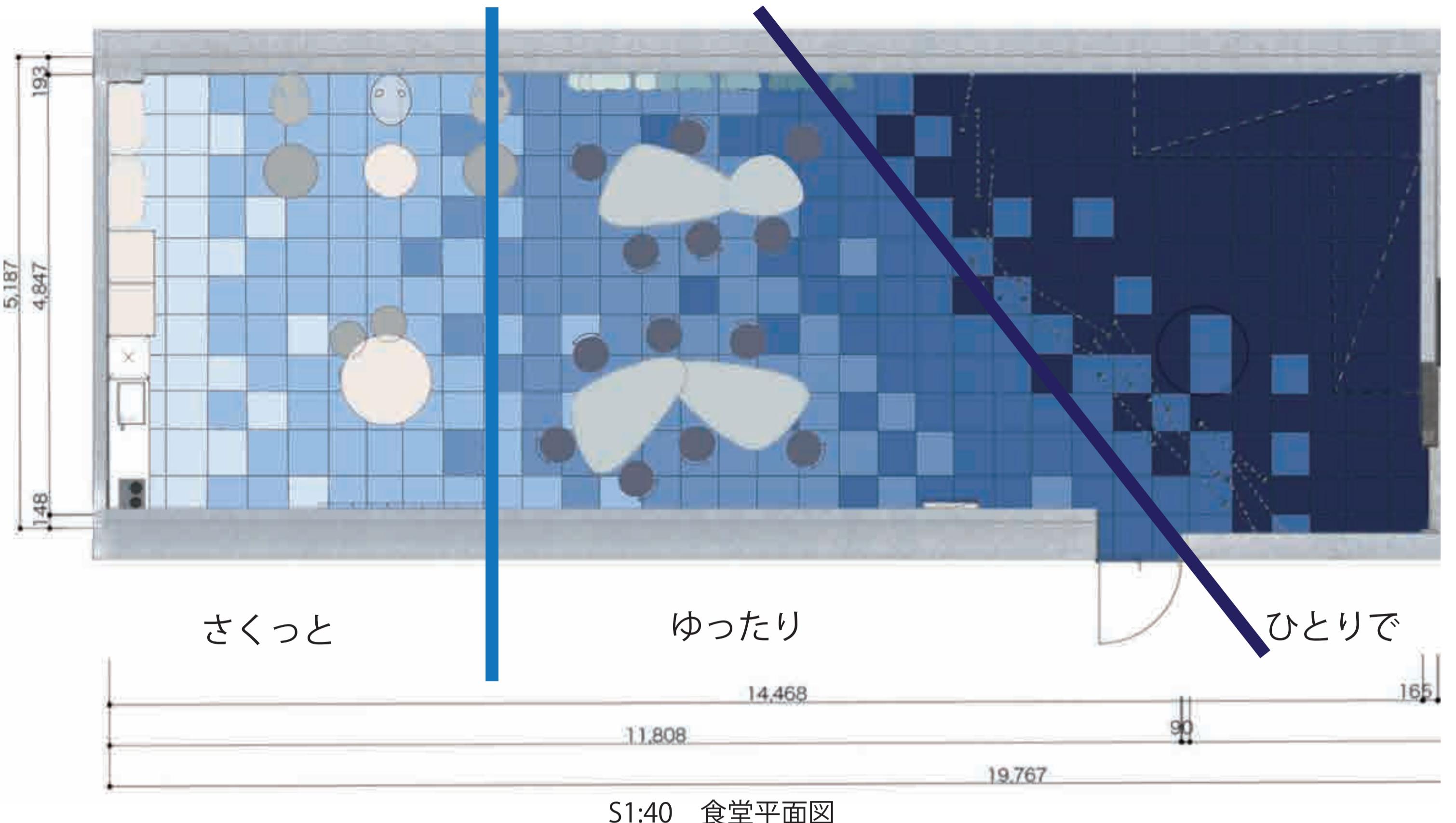
# YURAGI × COCOON

「さくっと」、「ゆったり」ゾーンでは「YURAGI」をテーマに、自然体で過ごせる居心地のよさと、気分に合わせて選べる多様な空間づくりを目指した。日常の中にある小さな揺らぎに着目し、休憩・会話・一人時間といった様々な過ごし方に対応できるよう、空間全体に“緩やかな変化”を持たせることを設計の軸とした。また、ゆらぎが水を連想させることから、コーポレートカラーである青をアクセントとして取り入れ、企業らしさとコンセプトを両立させた。

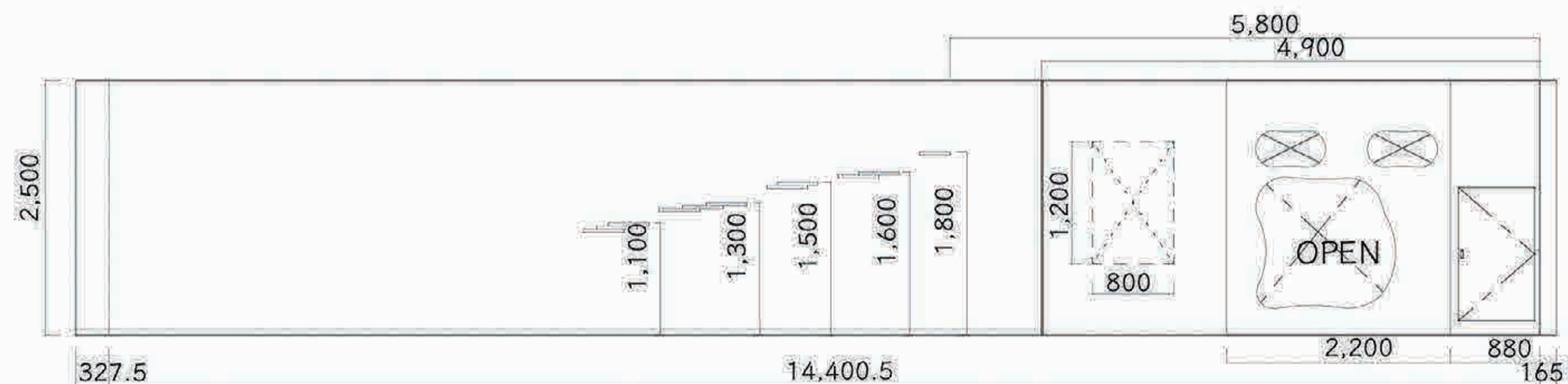
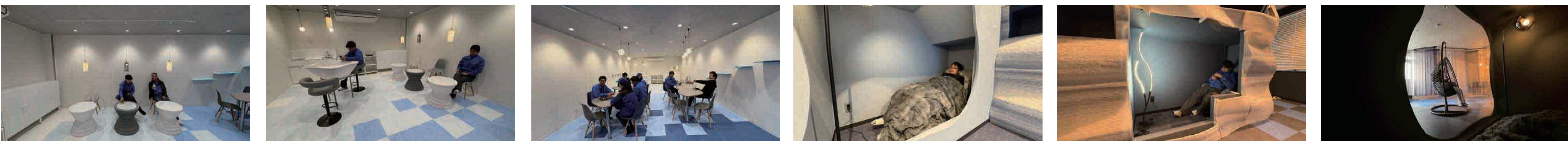
視覚的なゆらぎを表現するため、床には5色のフロアタイルをグラデーション状に配置し、色の移ろいに合わせてレイアウトも段階的に切り替え、色に合わせて自然と過ごし方が切り替わる構成とした。

「ひとりで」ゾーンでは、「COCOON」をテーマに、ひとりの時間を存分に味わえる空間とした。ハンギングチェアを設置し、揺らぎのある空間の中で、身体をあずけながらゆっくりと過ごせる場をつくりつつある。

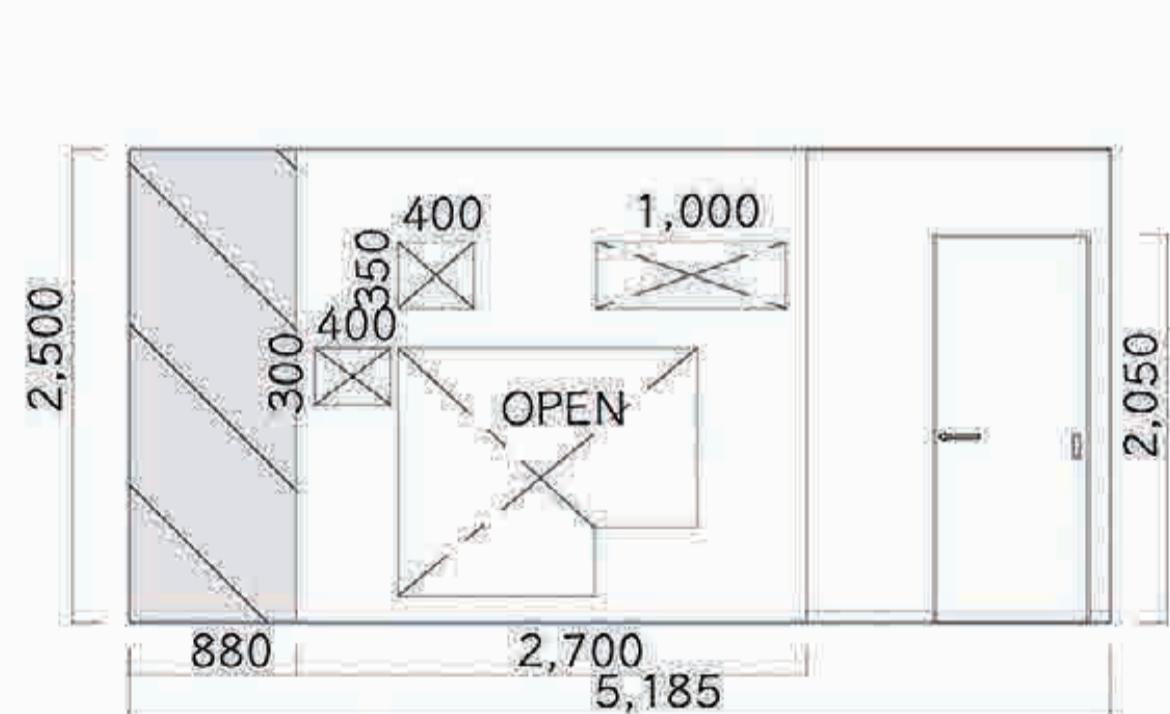
また、今回の計画の中で最もこだわりを持って提案したのが、こもる壁である。誰とも視線が交わらない環境の中で、気持ちをほどき、仕事の疲れをリセットするための「真のリフレッシュ空間」を目指した。



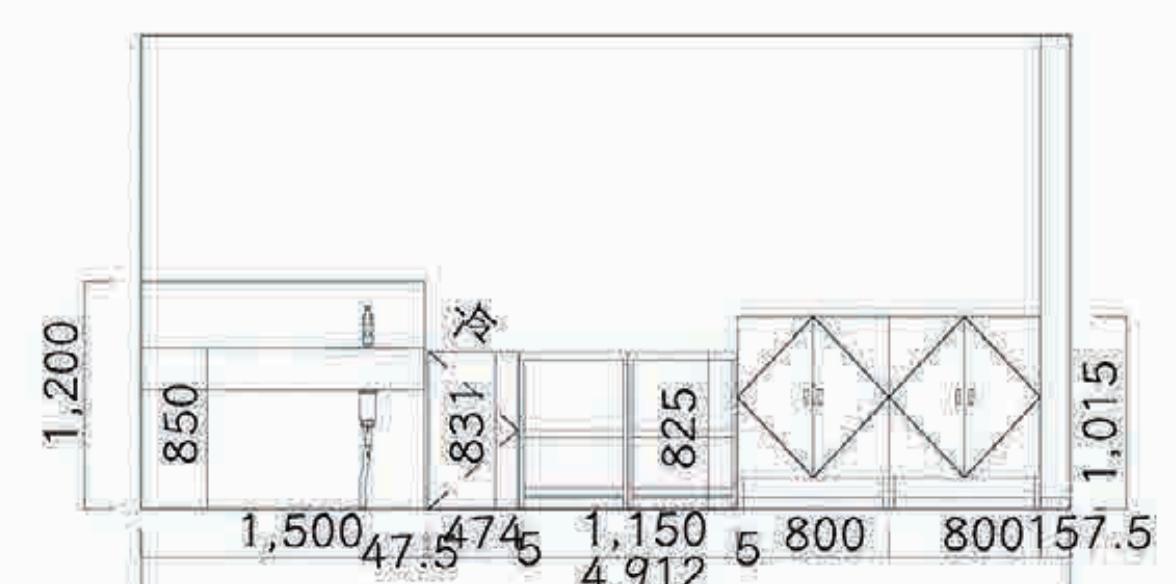
S1:40 食堂平面図



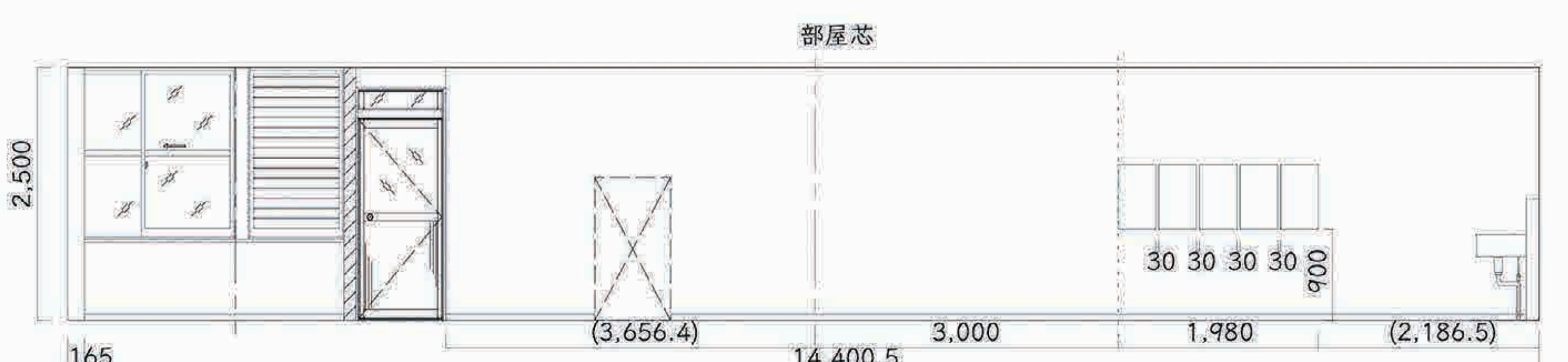
S1:40 食堂北側展開図



S1:40 食堂東側展開図



S1:40 食堂西側展開図



S1:40 食堂南側展開図

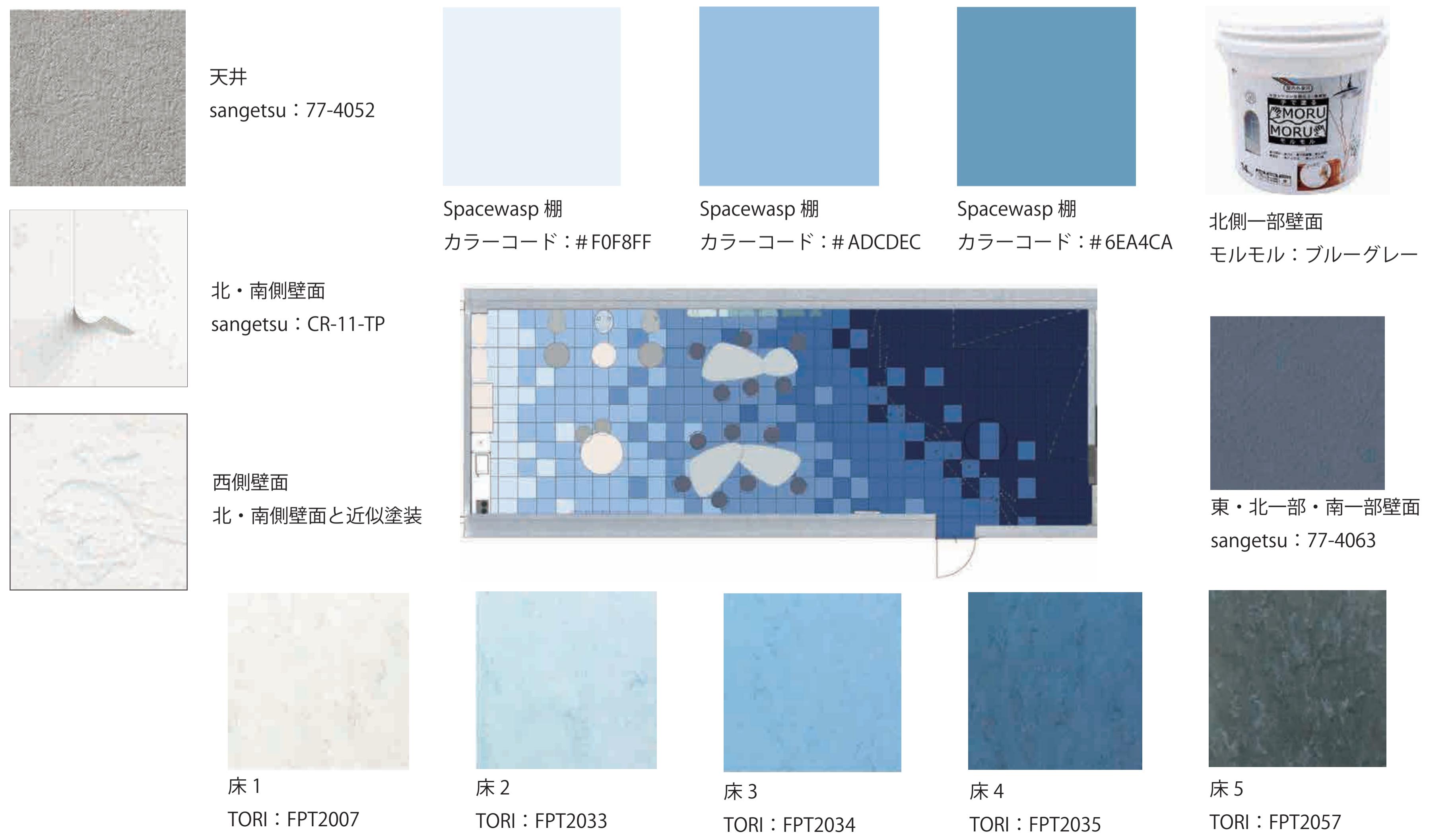
明るい側には短時間で利用できるコーヒーテーブルやハイテーブルを配置し、「さくっと」立ち寄れる場をつくった。そこから奥に進むにつれて、ゆったりと過ごせる席を増やし、さらに落ち着いたトーンのエリアでは一人で過ごしやすい居場所を設けた。

このように、空間の奥行きに沿って明るさや居心地、過ごしが自然に変化していく構成とすることで、利用者が無意識のうちに自分に合った距離感や滞在の仕方を選べるグラデーションをつくり出している。

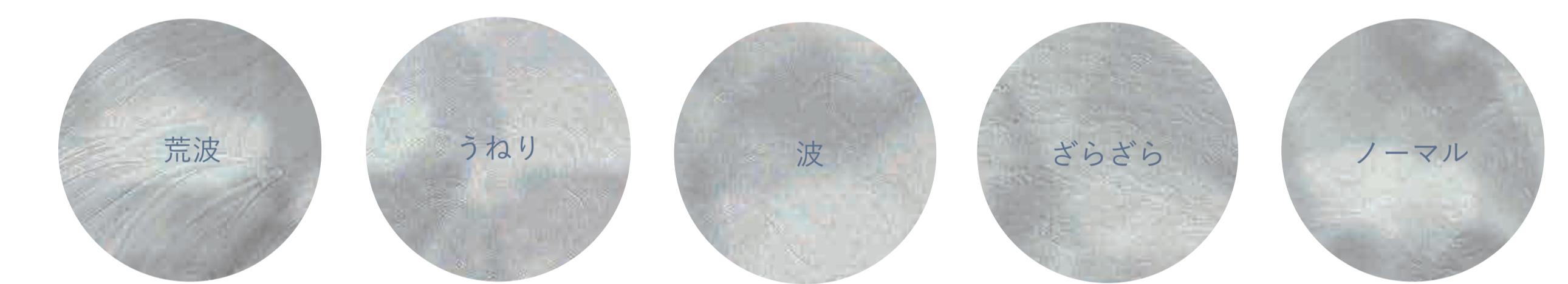
過ごし方の異なる場をゆるやかにつなぐため、「ゆったり」と「ひとりで」の間にチュールのカーテンを設けた。視界を和らげつつ、『くぐる』という行為が居場所や気持ちを切り替えるスイッチとなる。



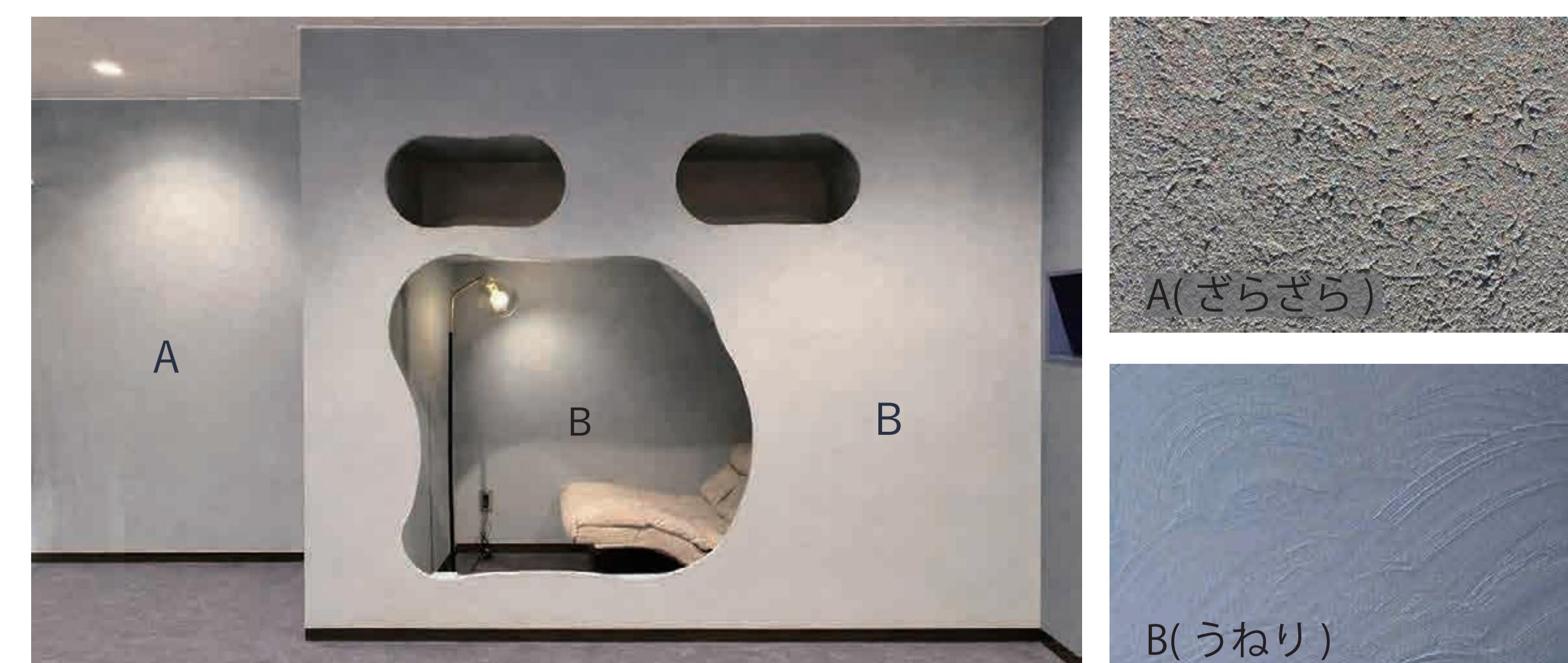
## 12 内装仕上げ



## 13 こもる壁モルモル表面仕上げ



こもる壁をモルモルで塗装する前に、模様の試し塗りを行った。  
「荒波」「泡」「波」「うねり」「ノーマル」の5種類を制作し、光の当たり方によって生まれる陰影や表情の変化にも注目しながら、空間に最もなじむ表情を検討した。開口部の有機的なラインと組み合わせた際に、動きがありながらも主張しすぎない表情としてAには「ざらざら」Bには「うねり」を採用した。

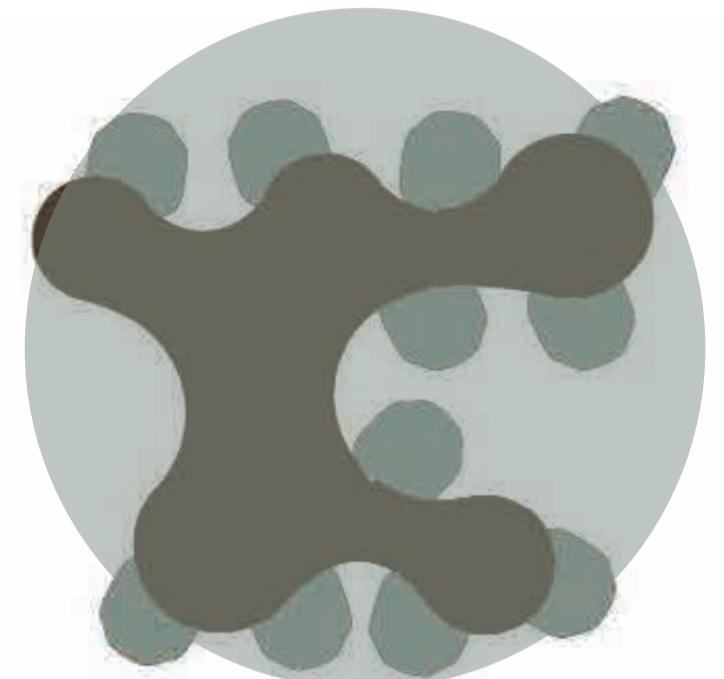


# AMOEBA

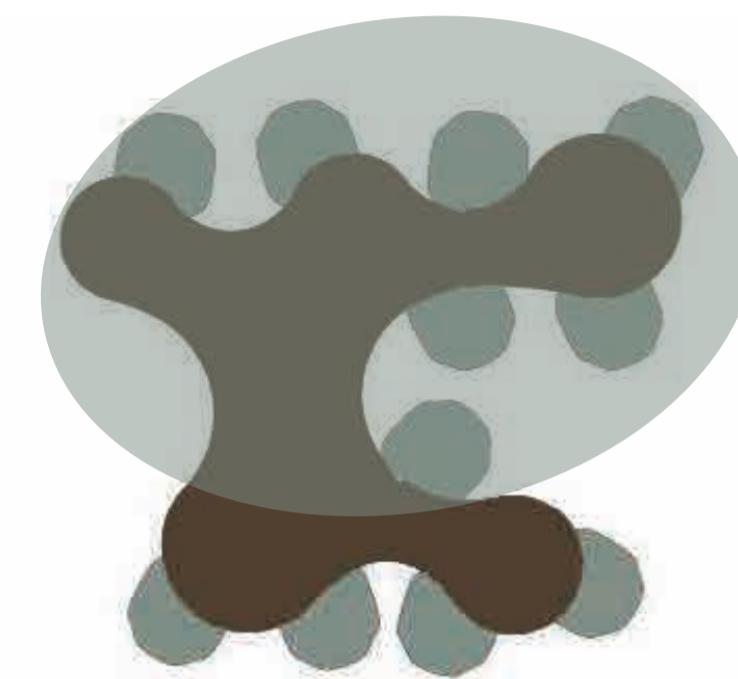
「交管の場」をテーマに、視線・思考・会話が自然に交わる環境を目指した。固定された正面や順序を作らず、場の中での関係性が自然に変化することで、形式張らないコミュニケーションが生まれる場である。工場で使われるパイプを扱い、机の脚から天板を貫き上部まで伸ばすことで、来訪者にもシンニチ工業らしさを印象づけている。

テーブルはアメーバのような有機的な形状とし、利用人数に合わせて集まり方を選べる柔軟なレイアウトを可能にした。固定的な使い方を想定しない構成とすることで、会議の規模や目的に応じて場の在り方が変化し、打ち合わせから意見交換、雑談、面接など様々な活動を受け止める場である。

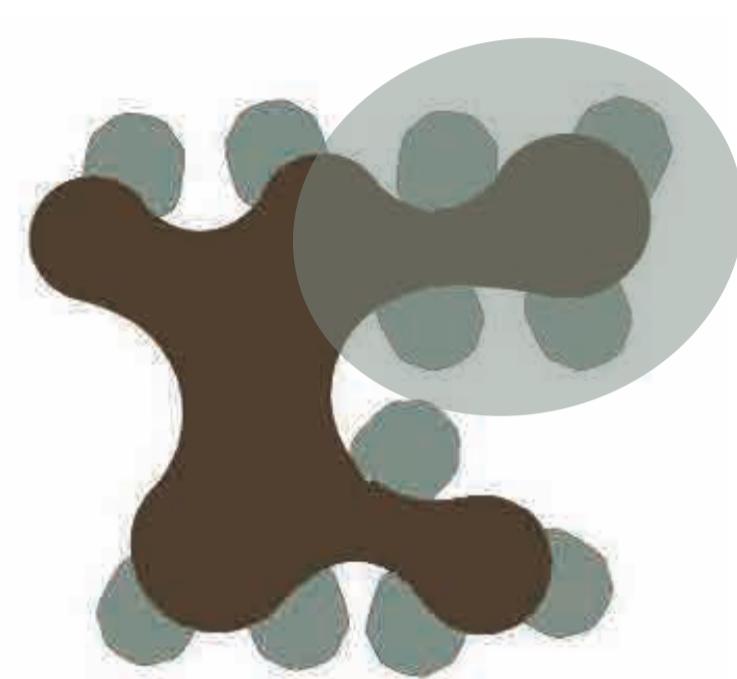
これまでにない形状を取り入れることで、従来の会議室とは異なる場の在り方を提案した。その在り方は、使う人や場所によって更新され続けていく。



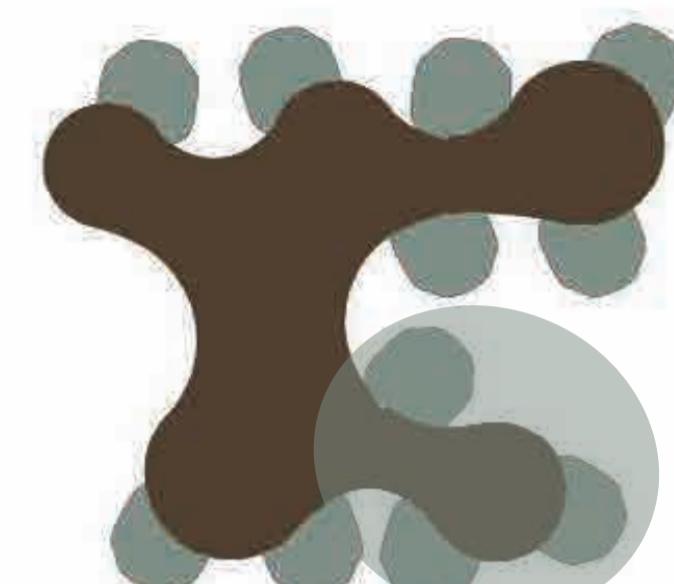
8-10人 / 会議



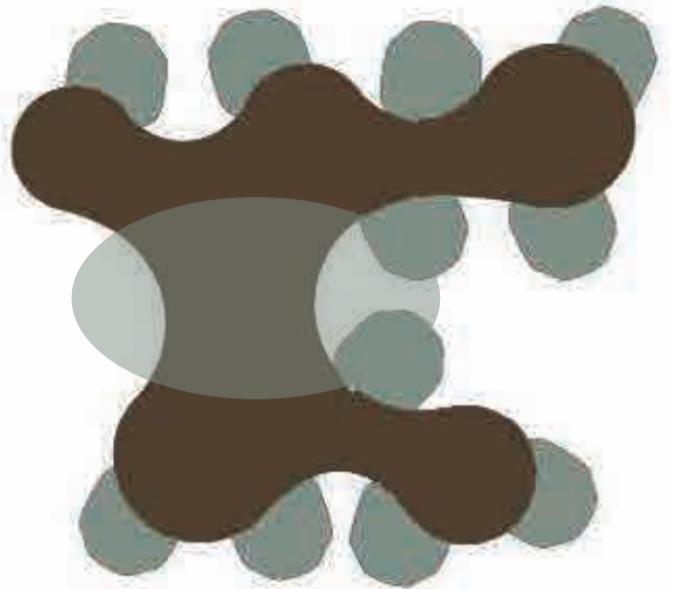
7人 / 意見交換



4人 / 相談



3人 / ミーティング



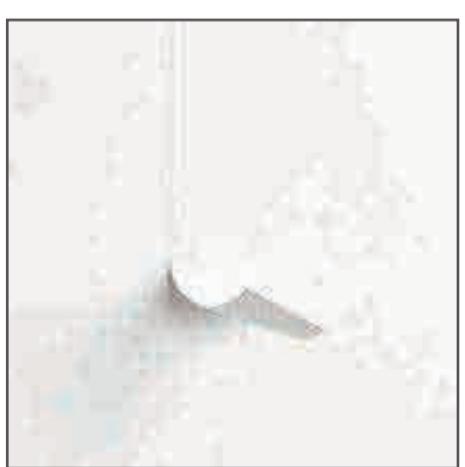
2人 / 面接



## 14 家具・内装仕上げ



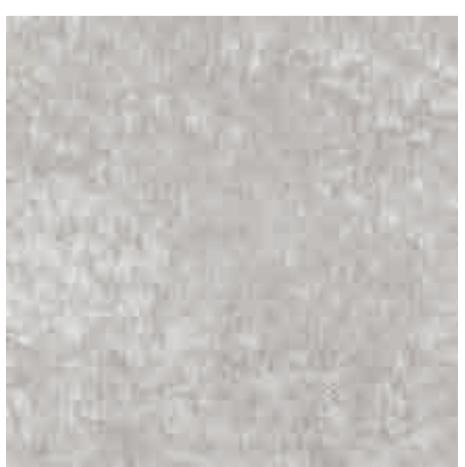
天井  
sangetsu : CR-11-TP



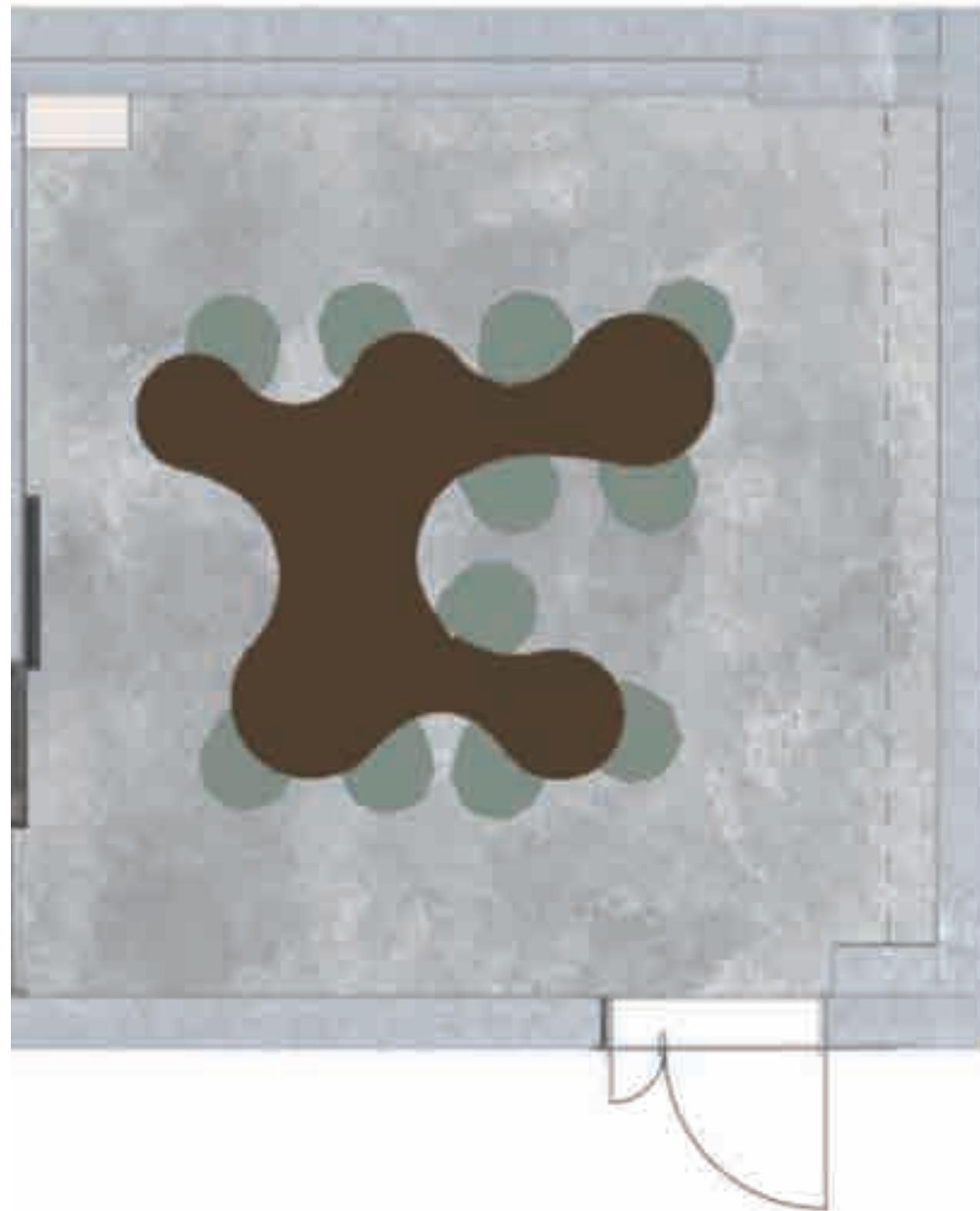
北側壁紙  
sangetsu : FE76296



西側壁紙  
sangetsu : FE76526



床  
sangetsu : KT2023



S1:30 会議室平面図



ペンダントライト

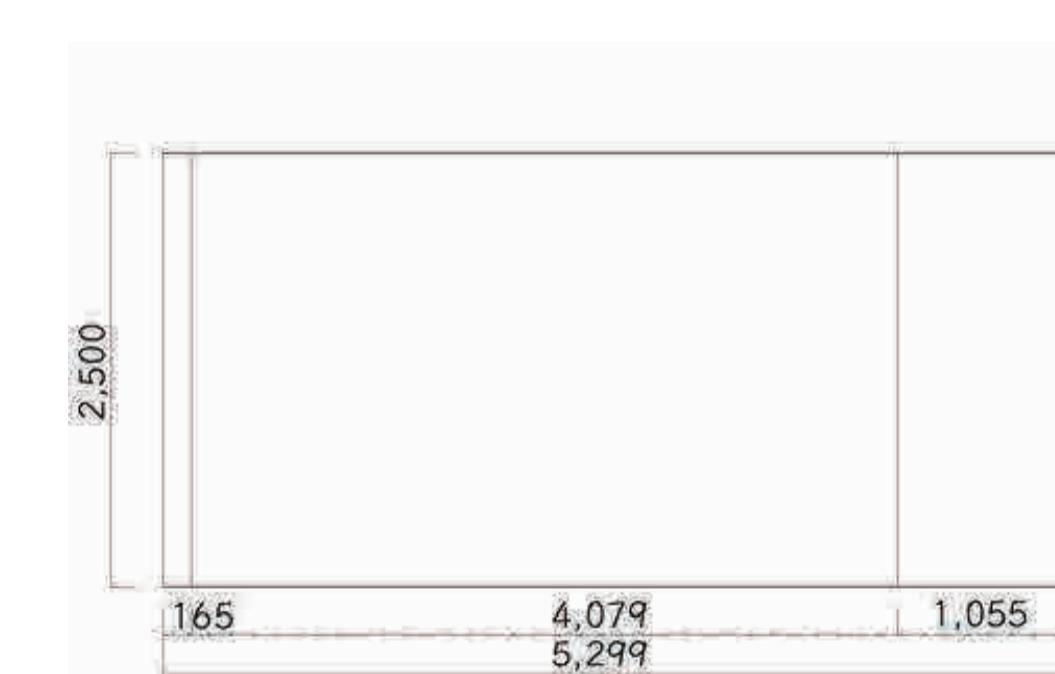


キャビネット

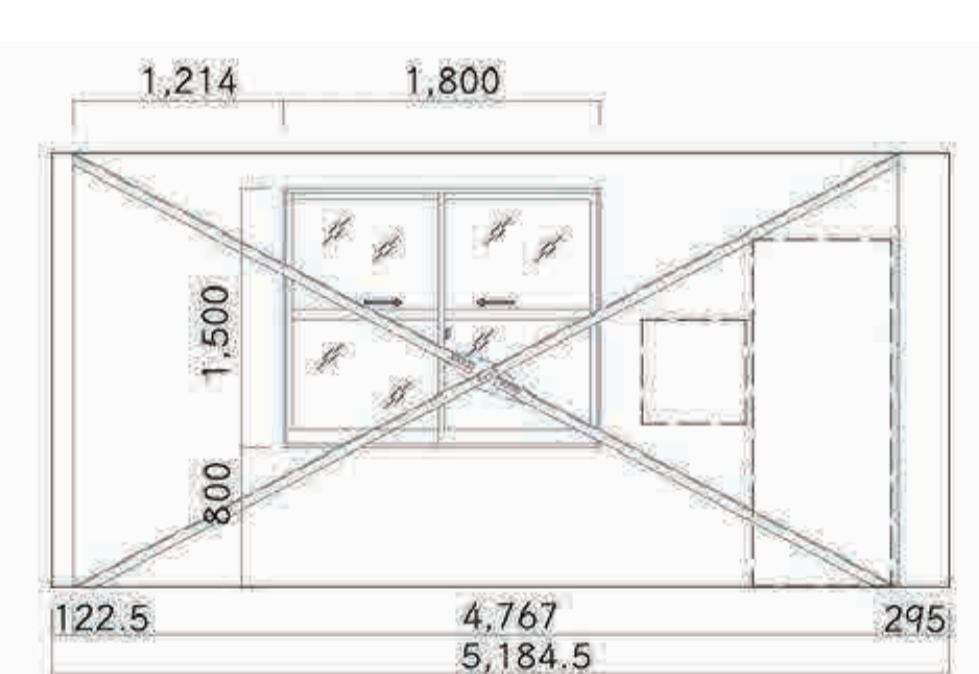


モニター吊り金具

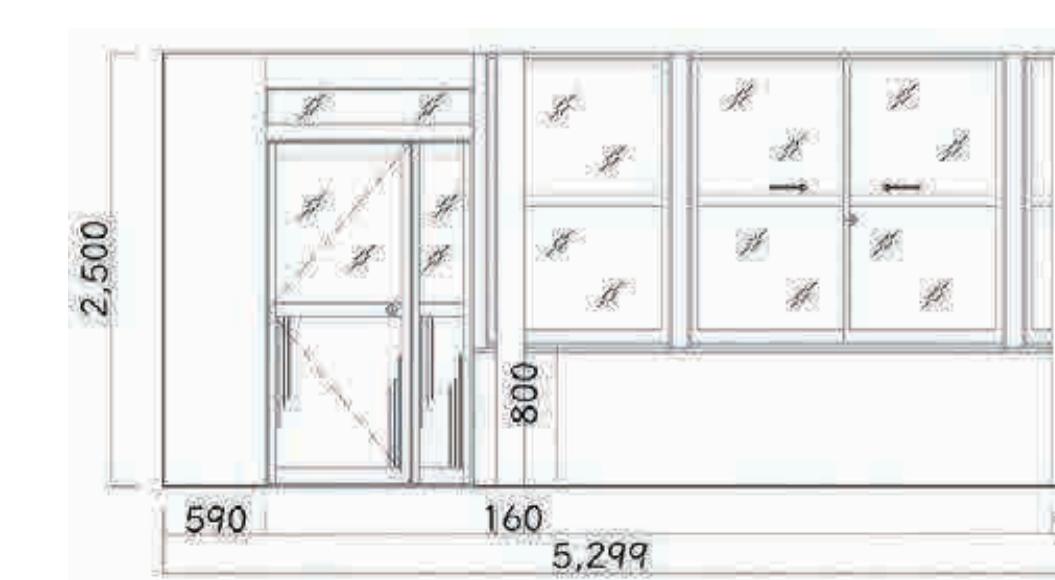
ニューヨークチェア



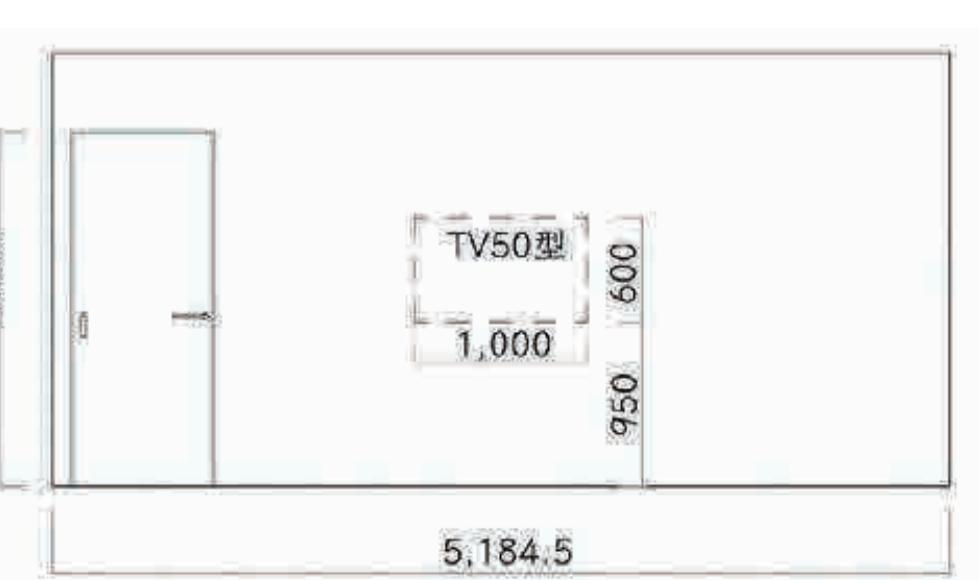
S1:40 会議室北側展開図



S1:40 会議室東側展開図



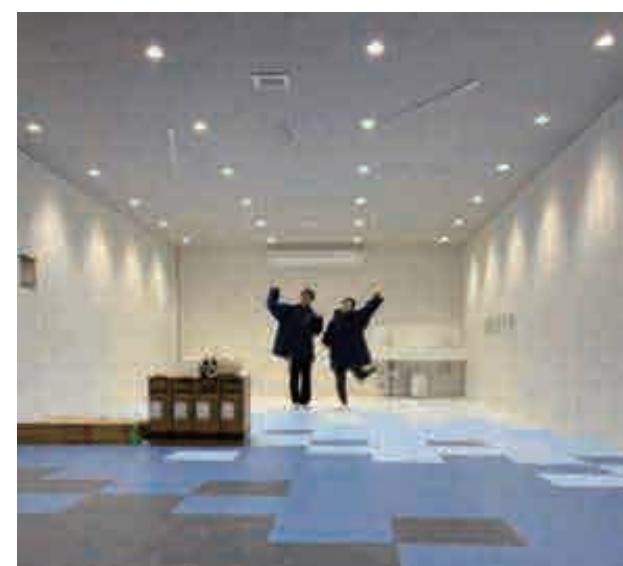
S1:40 会議室南側展開図



S1:40 会議室西側展開図

11.05・養生

11.07・天井ボード、下地撤去



11.11・配線撤去



11.14・墨出し、配線確認



11.18・天井 LDS



11.20・Atmoph Window 下地



11.23・キッチン設置



11.24・壁固定棚アングル設置



12

12.03・壁塗装



12.08・クロス張り



12.10・カーテン金物設置



12.12・天井、壁の器具取り付け



12.15・フロアタイル張り



12.18・ブラインド取り付け



12.20・引き渡し



12.21・テーブル天板塗装 1、2回目



12.25・モルモル塗装



・テーブル天板と脚のビス留め



12.17・カーテン設置



2026y  
01

01.08・クランプとパイプの組み立て

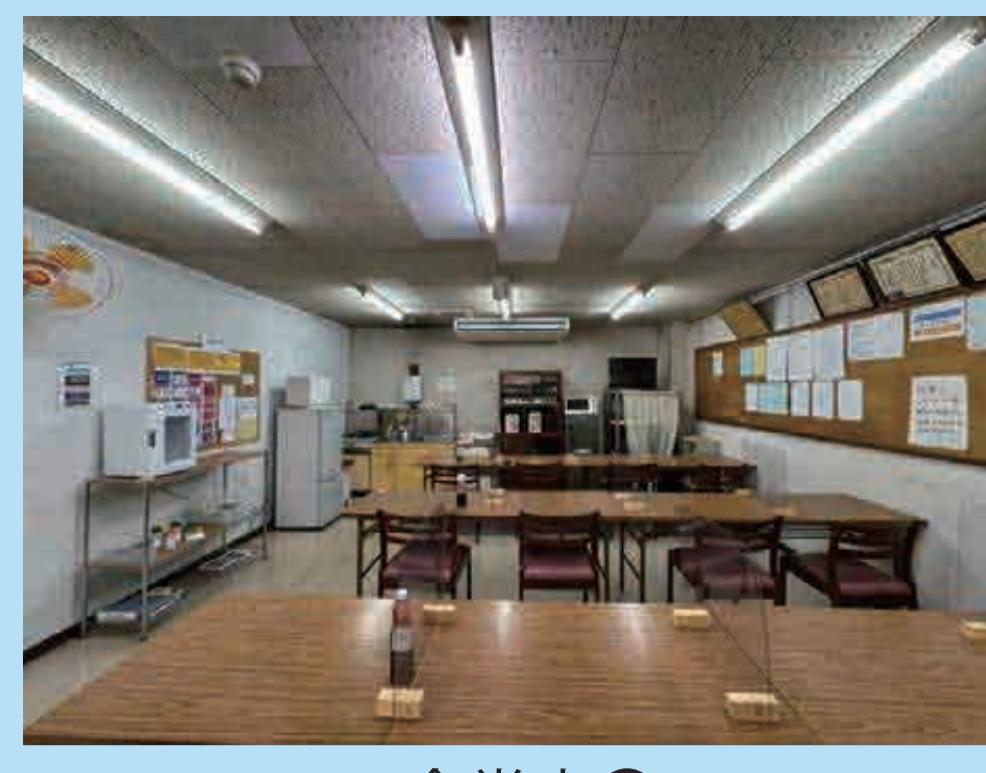


・ワーロン紙採寸、設置



01.15・家具組み立て完了

## 15 工事工程



食堂東①



食堂東②



食堂東③



食堂東④



食堂西①



食堂西②

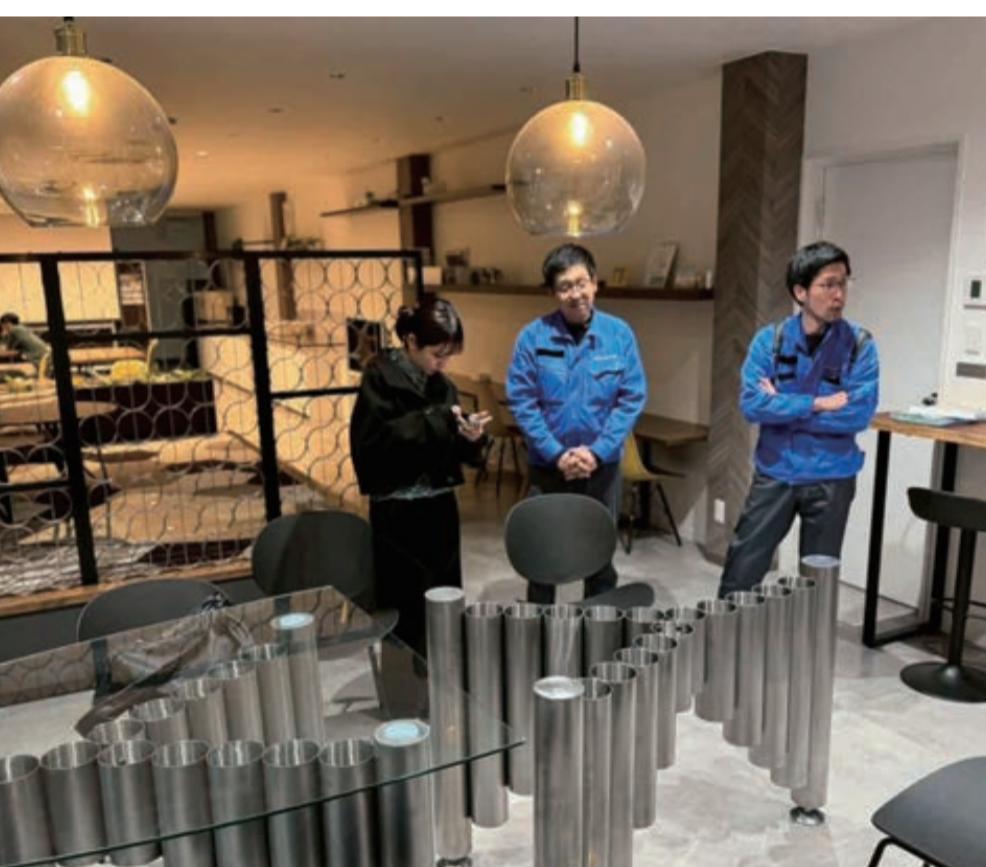


食堂西③



食堂西④

## 16 自主施工



先輩自主施工作品調査



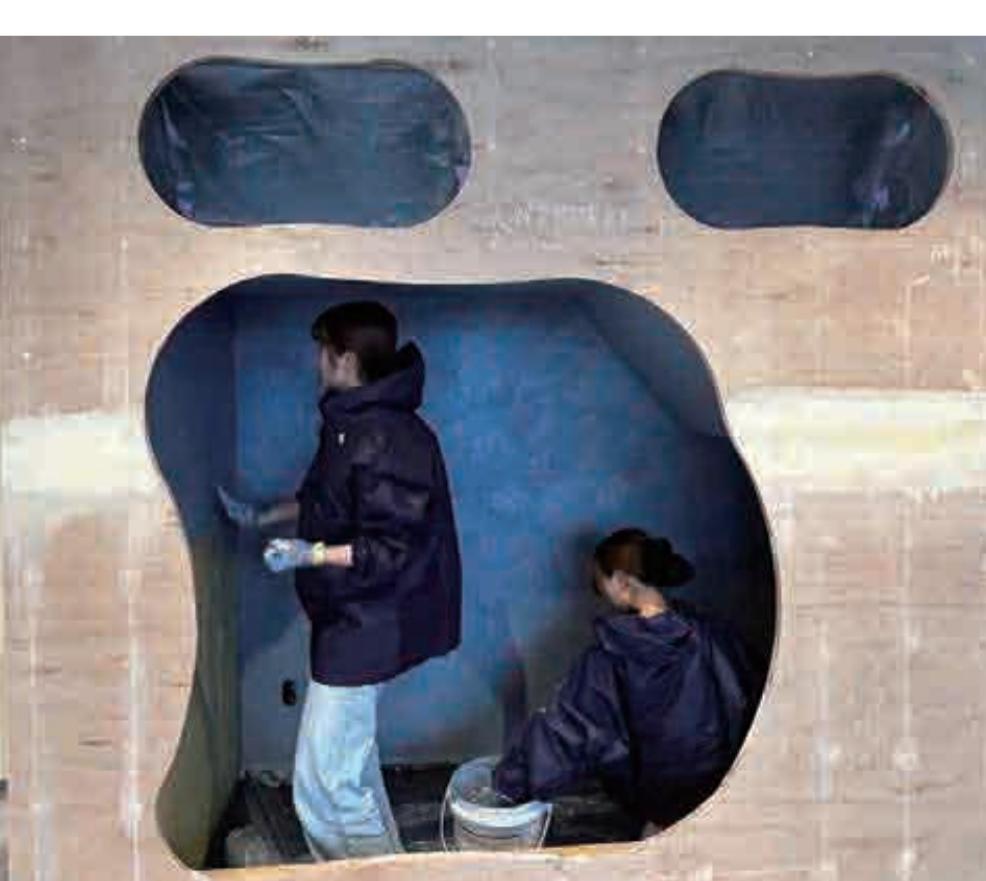
YURAGI 天板塗装 1 回目



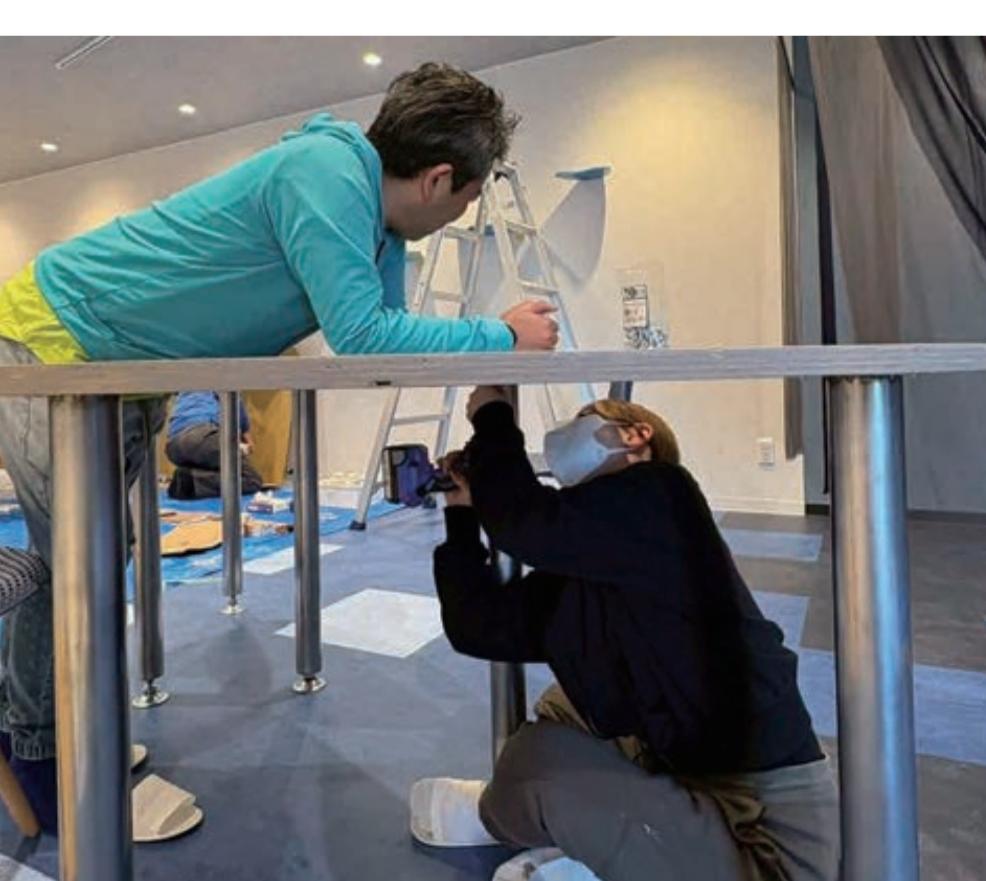
AMOEBA 天板塗装 1 回目



天板塗装 2 回目



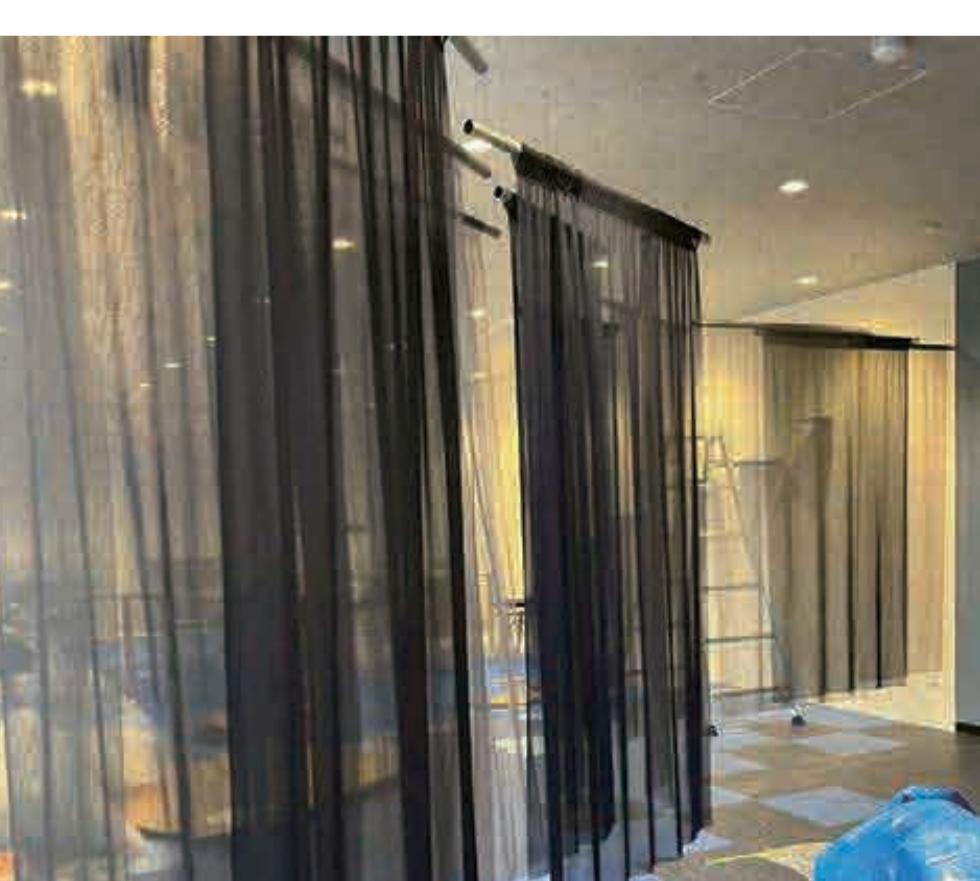
モルモル塗装



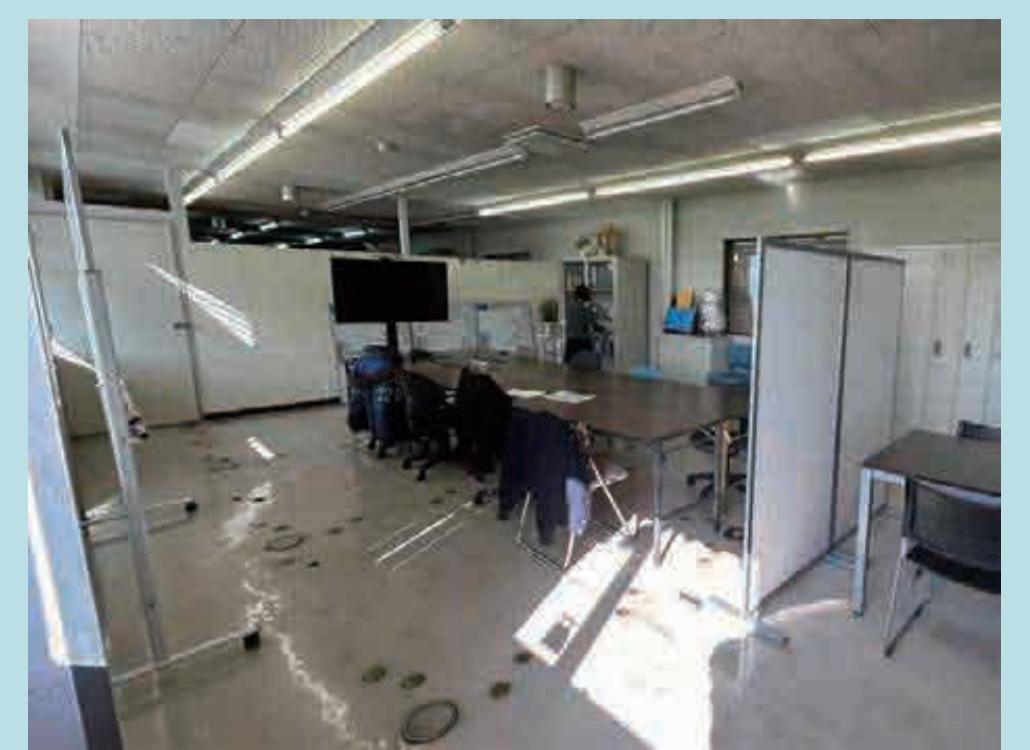
テーブル天板・脚のビス留め



固定棚ビス留め



カーテン設置



会議室東①



会議室東②



会議室東③



会議室東④



会議室西①



会議室西②



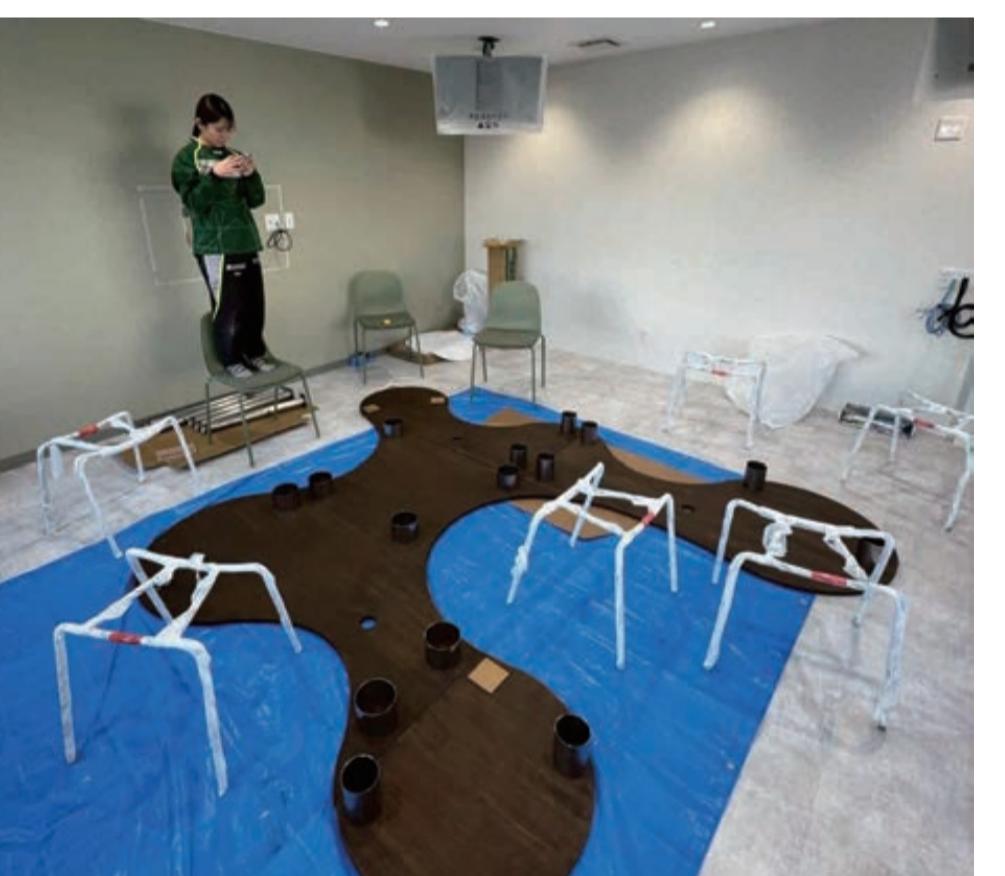
会議室西③



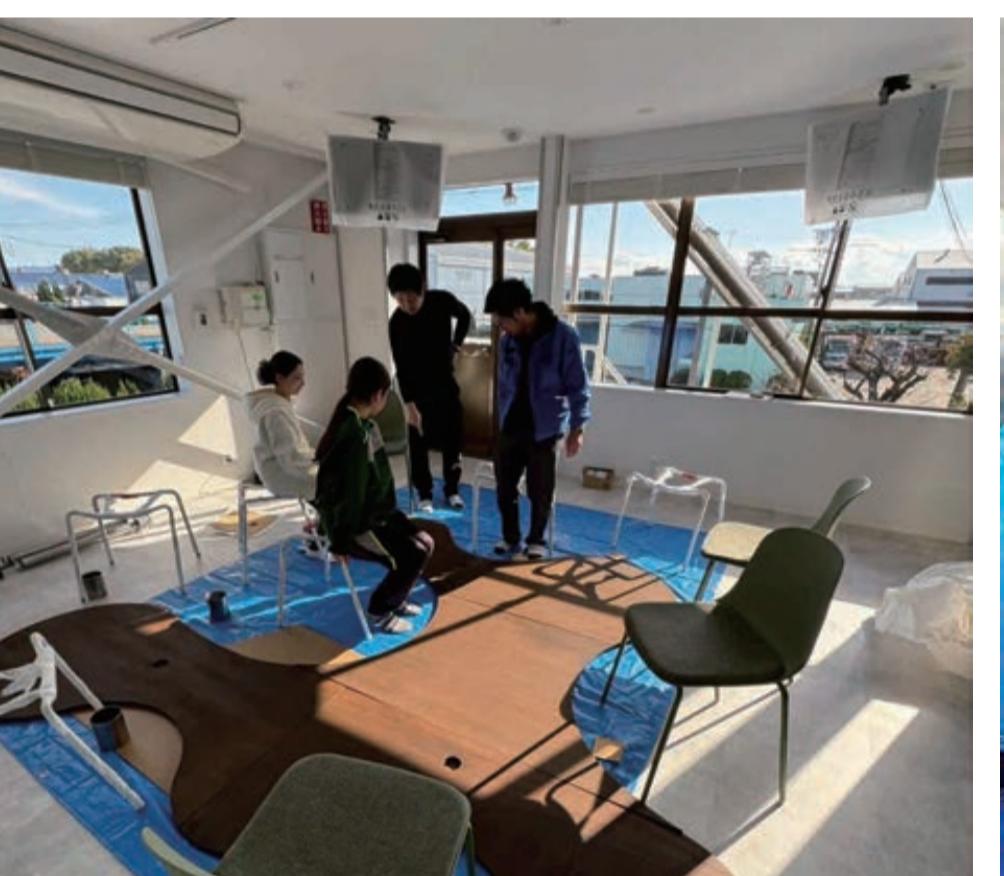
会議室西④



クランプ強度確認



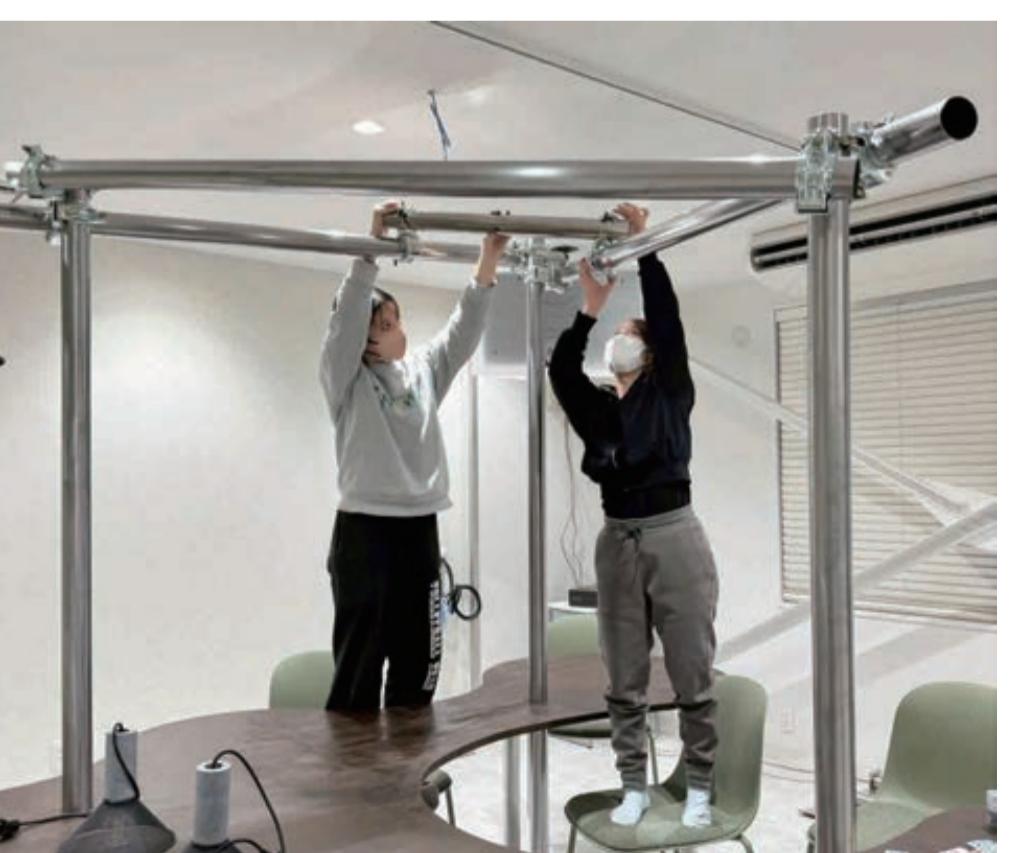
テーブル脚、座席位置検討



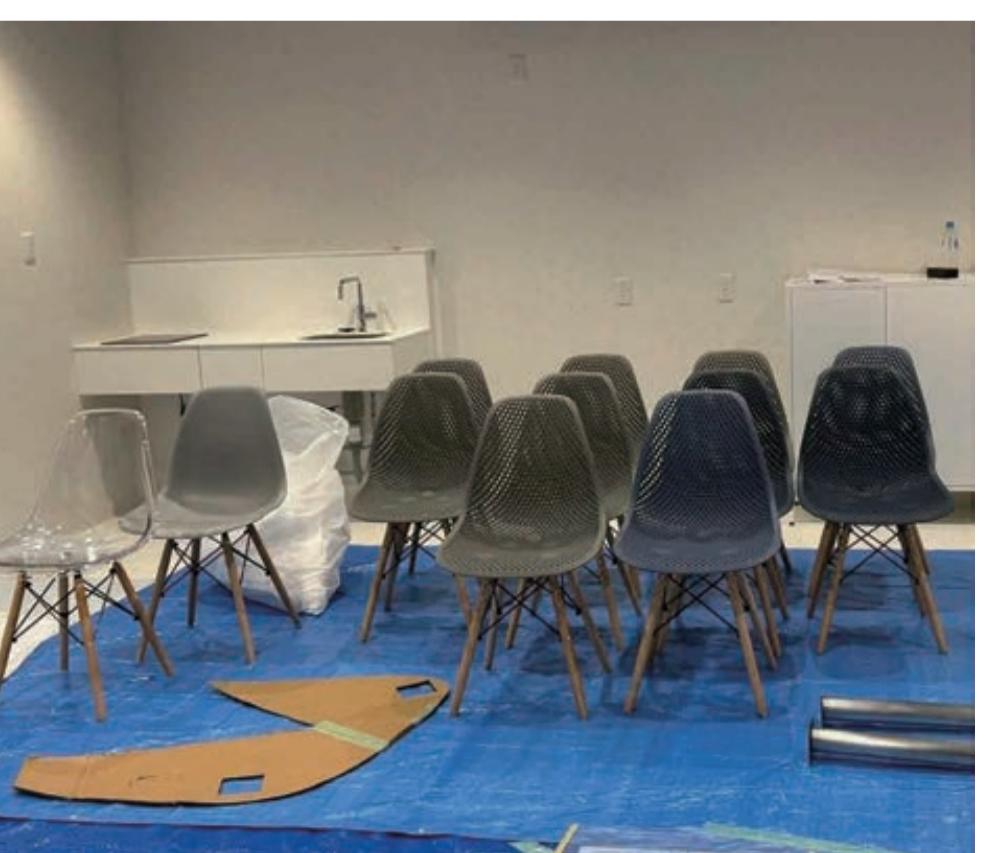
社員の方とも話し合い現場で調整



脚ビス留め位置決定



クランプとパイプの組み立て



家具組み立て



照明照度確認



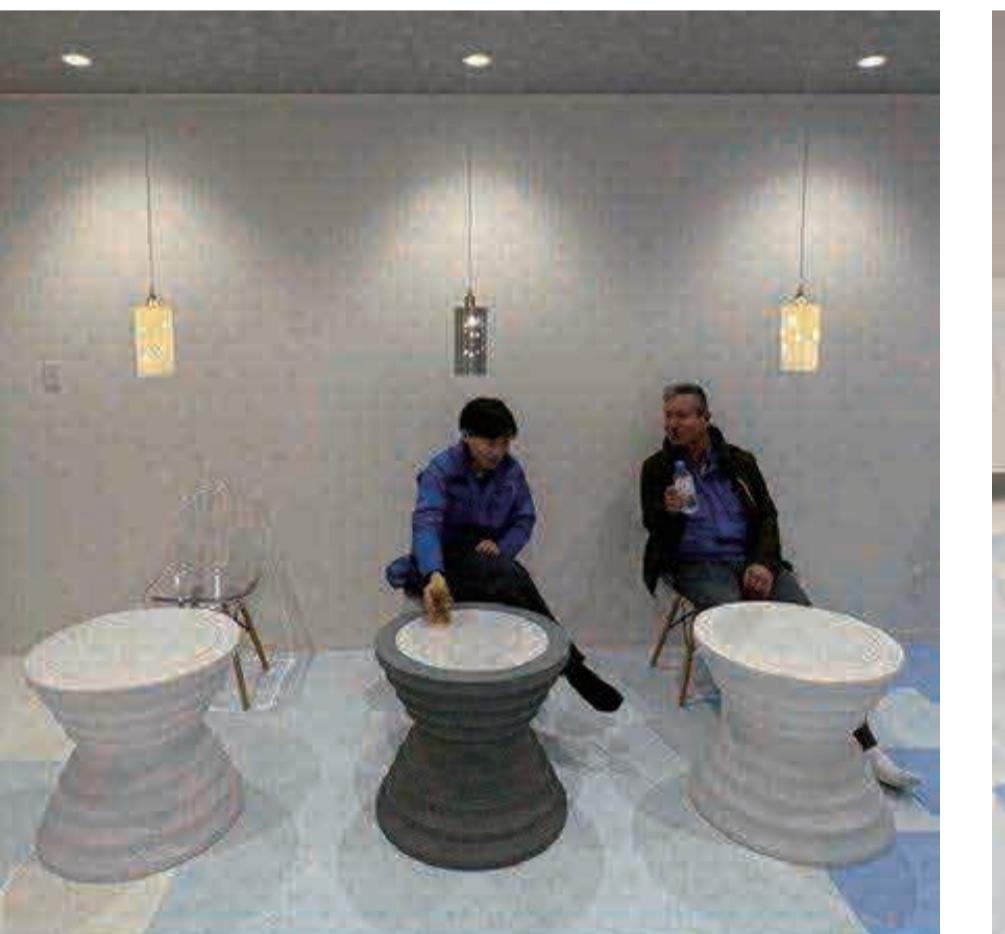
ワーロン紙採寸・設置

## 1. コーヒーテーブル

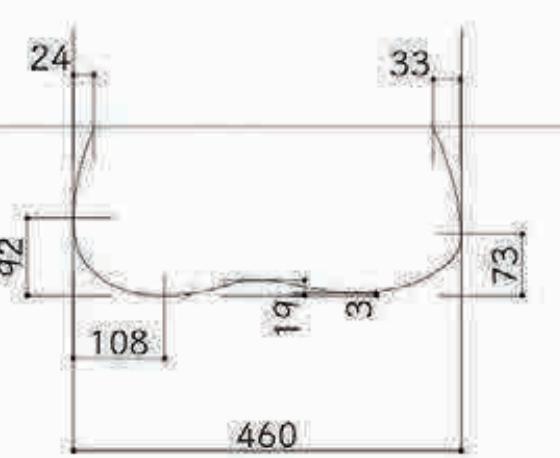
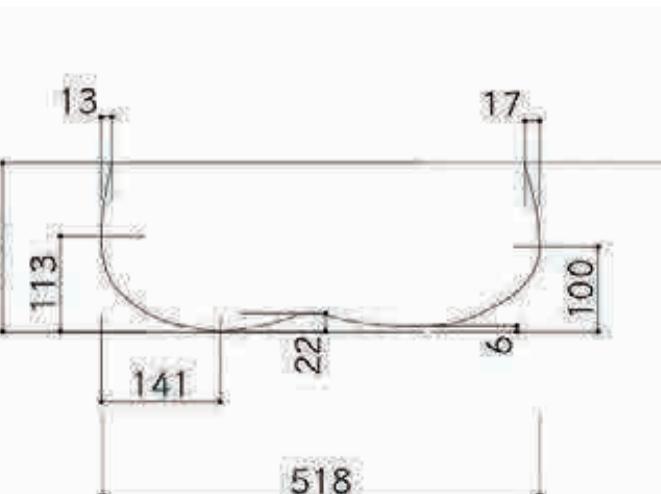


5分、10分といった短い休憩でも2階に足を運び、リラックスしてほしいという思いから、コーヒーテーブルを提案した。何層にも重なった樹脂がわずかにずれることで、不規則さや揺らぎが表れる。

天板部分は、アクリルにワーロン紙を挟み込み、素材の重なりによる表情を加えることで、より味わいのある仕上がりとした。



## 3. 壁固定棚



S1:10 壁固定棚上面図

## 2. ハイテーブル

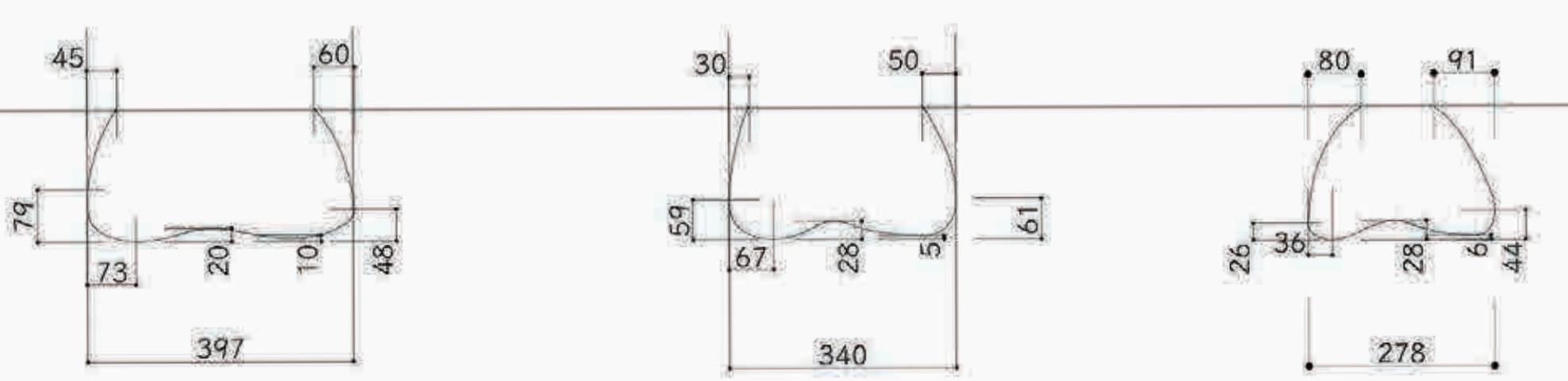


ふらつと立ち寄り、コーヒーを片手に会話を楽しんだり、ひとりで過ごしたりできる場所として考えた。雲が落ちる様子や、雲のようにゆっくり形を変える揺らぎをイメージし、テーブルの形に落とし込んでいる。天板に泡が混ざり込んだような表情のアクリル板を用いることで、空間に優しいまとまりを持たせた。

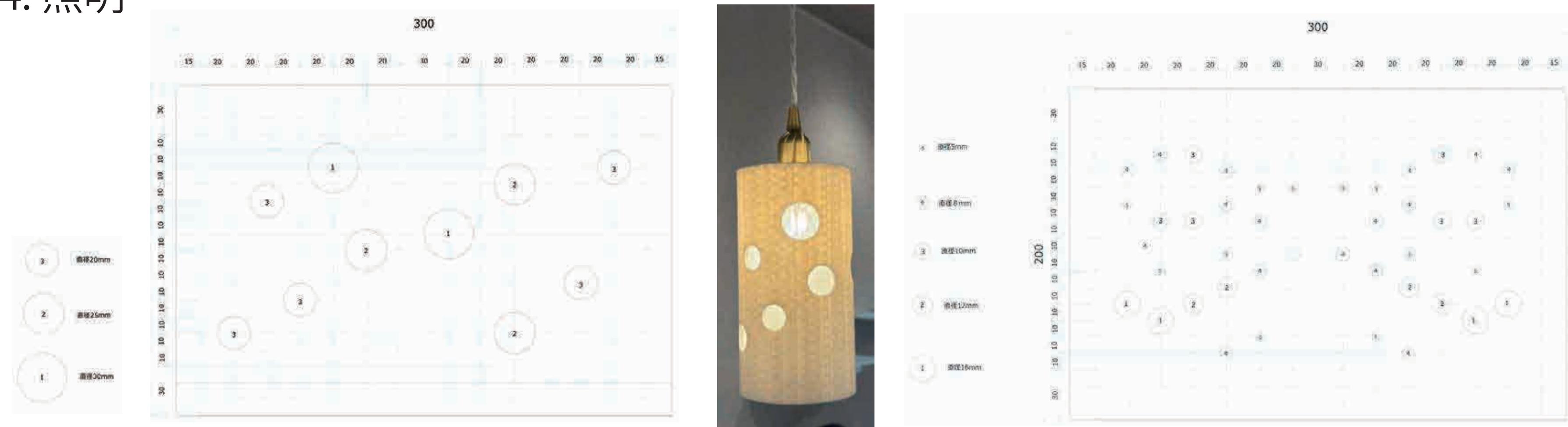


床や過ごし方のグラデーションに合わせ、こもる壁へ向かうにつれて少しづつ暗めの配色としている。サイズの異なる板を右に進むほど徐々に小さく配置し、有機的な形と相まって、揺らぎやうつろい、動きが感じられるようにした。

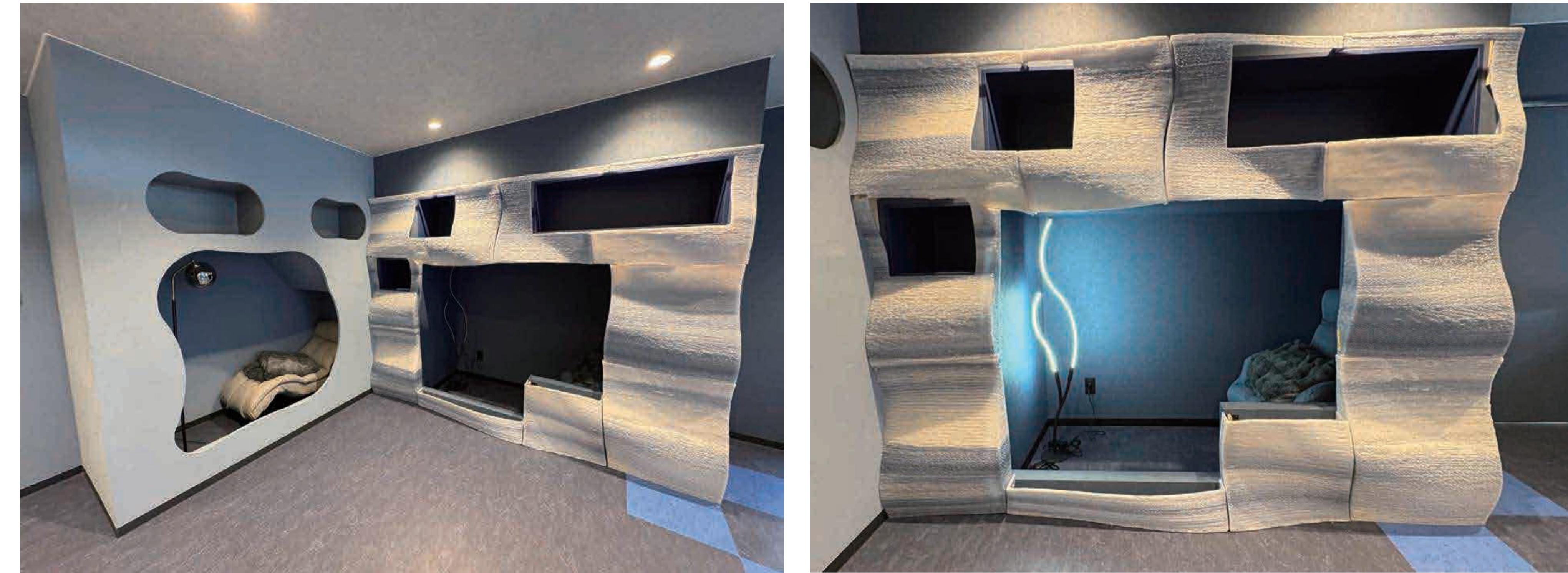
また、照明に照られた棚の影が壁面に落ちることで、実体だけではなく影からも、不規則さや揺らぎが伝わるデザインとしている。



## 4. 照明

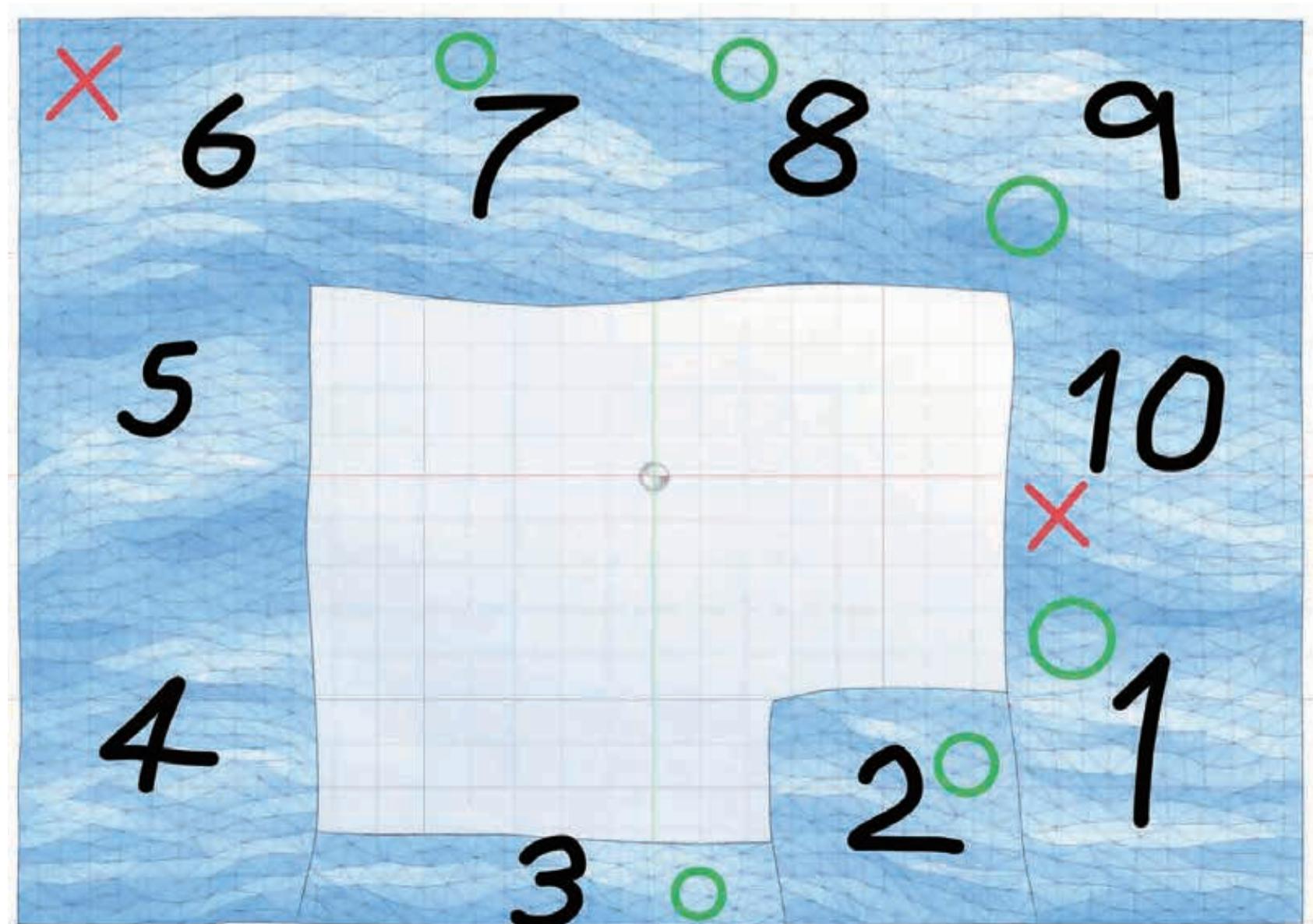


## 5. こもる壁



他の素材では表しきれない質感や淡いグラデーション、柔らかく包み込むような雰囲気を生み出すため、X・Y軸の曲線に加えZ軸方向にも抑揚を持たせ、立体的な構成とした。

照明が当たることでより陰影が生まれ、時間帯や視点によって異なる印象を感じられる空間とした。視覚的な変化にとどまらず、身を置くことで心身が緩やかに解けていくような、真のリフレッシュを促す場を目指した。

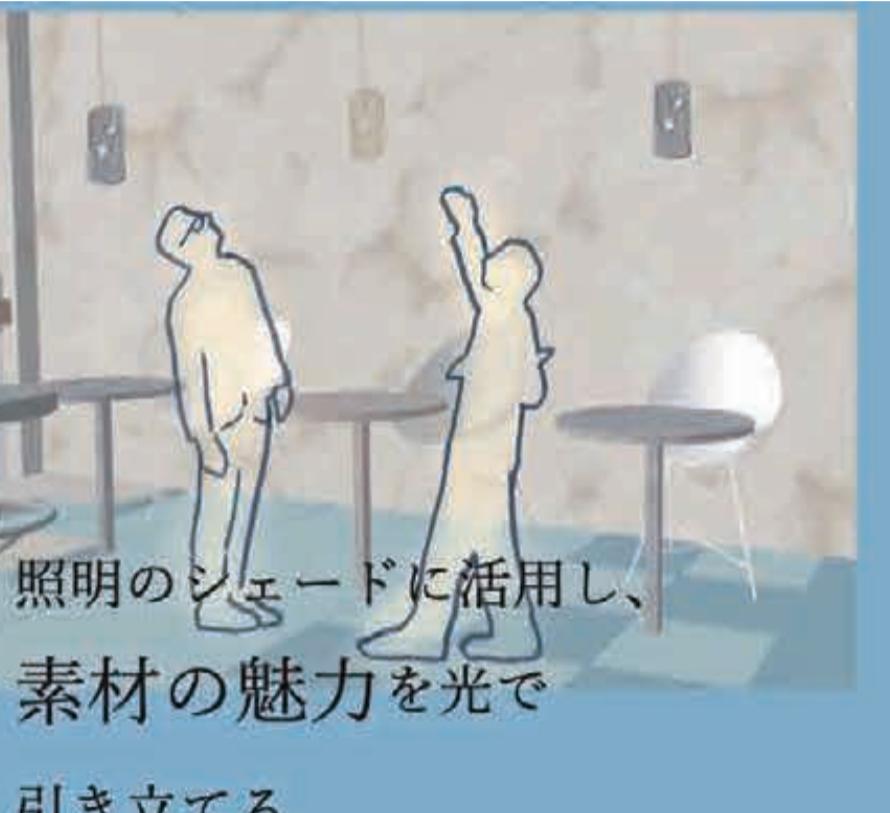
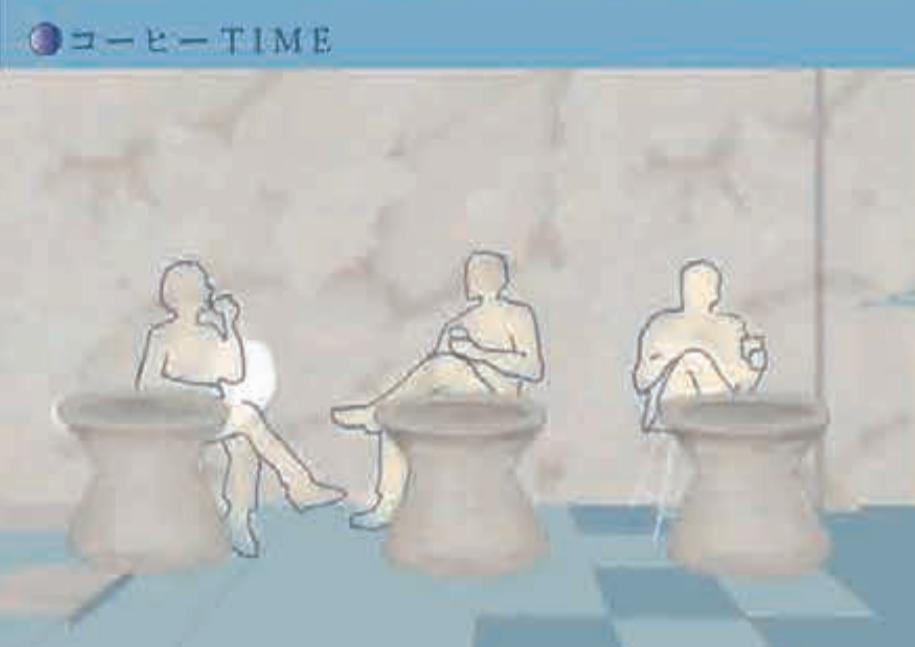


- 1.①②③④をボルトで連結
- 2.①②③④を壁に当てて横からビス打ち
- 3.⑤⑩を乗せ壁、左右からビス打ち
- 4.⑥⑦⑧⑨をボルトで固定し、⑤⑩の上にはめ込み、右からビス打ち、左側⑥は左の壁に向かってビス打ち
- 5.②③⑦⑧は壁に固定できていないので、空いている隙間、上からし金物で固定

## 18 展示会で広がるシンニチ工業株式会社と株式会社 Spacewasp とのコラボレーション

11月5日メッセ名古屋で行われた、シンニチ工業株式会社の展示会において、株式会社 Spacewasp と橋本雅好研究室によるコラボレーションを行った。展示スペースのレイアウト計画をはじめ、Spacewasp の魅力をより引き立たせるための工夫を行い、シンニチ工業単体の展示にとどまらず、Spacewasp にも関心を持ってもらえるよう、展示全体の構成を意識した。計画にあたっては、関係者間で打ち合わせを重ね、空間の考え方や、展示の意図を来場者に伝えるため、以下のようなプレゼンボードを作成した。

これらを通して、私たちが手掛ける空間づくりそのものを伝えることを目的とし、展示会という場を生かした多角的な取り組みを行った。



### 企業 × 学生 による新しい共創のプロジェクト

● シンニチ工業株式会社  
シンニチ工業は、豊川市に本社を構えるパイプメーカーです。お客様一人ひとりのニーズに寄り添い、用途に合わせた最適な提案と加工で応える対応力。そして、高精度で美しい仕上がりを実現する技術力。  
この2つを軸に、幅広い分野で社会を支え続けています。



● 桐山女学園大学 橋本研究室  
桐山女学園大学 橋本研究室では、人と空間の関わりをテーマに、建築・インテリアのデザインを研究しています。学内外での多様なプロジェクトにも取り組み、研究や制作の幅を広げています。活動の様子もぜひご覧ください。



#### 株式会社 Spacewasp との協働

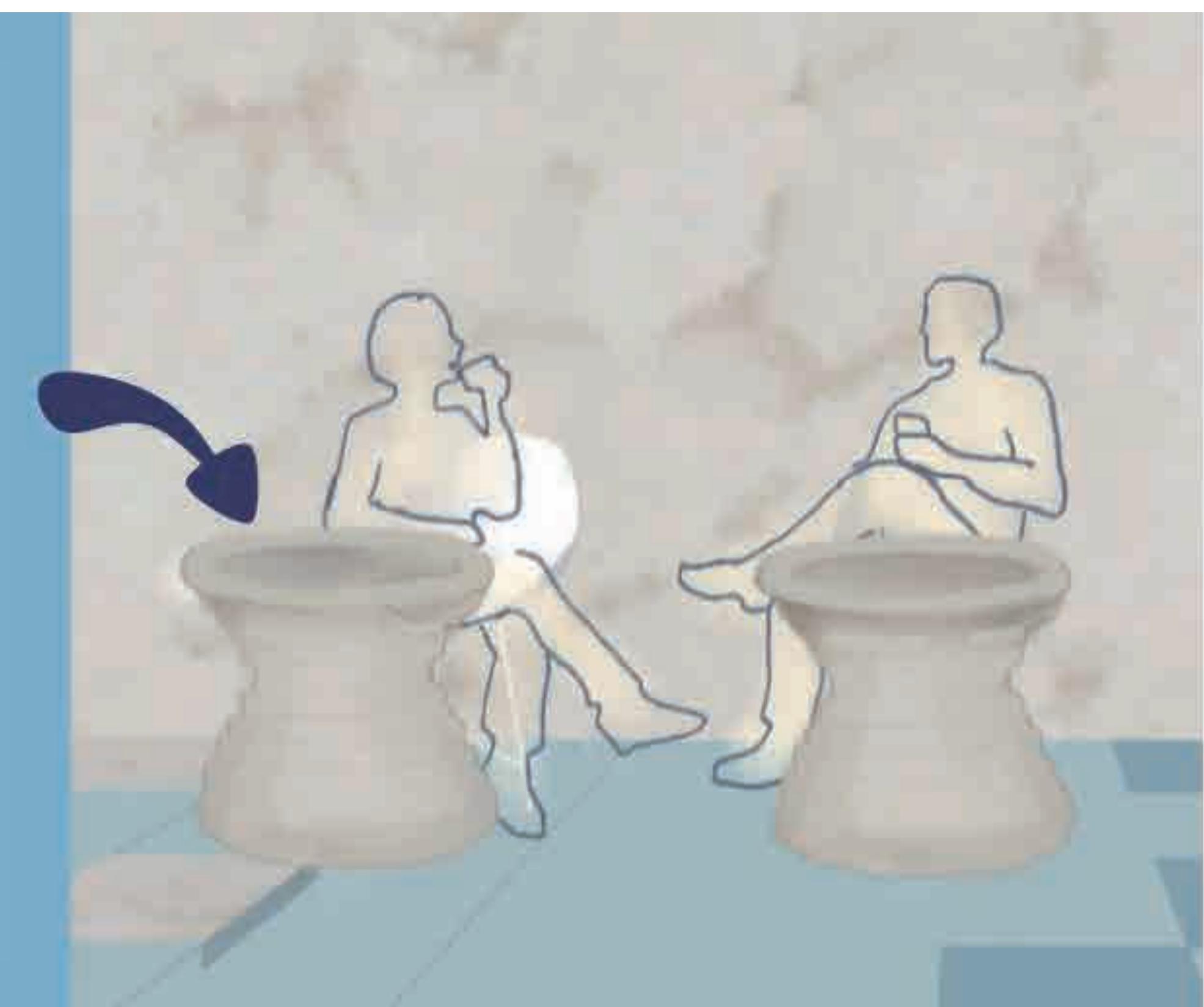
植物廃棄物と3Dプリンティング技術を活用し、環境負荷を抑えながら新たな価値を生み出す、サステナブルなインテリアを創出しています。今回私たちが行なうリノベーションではこのように活用します。



こもる壁表面装飾

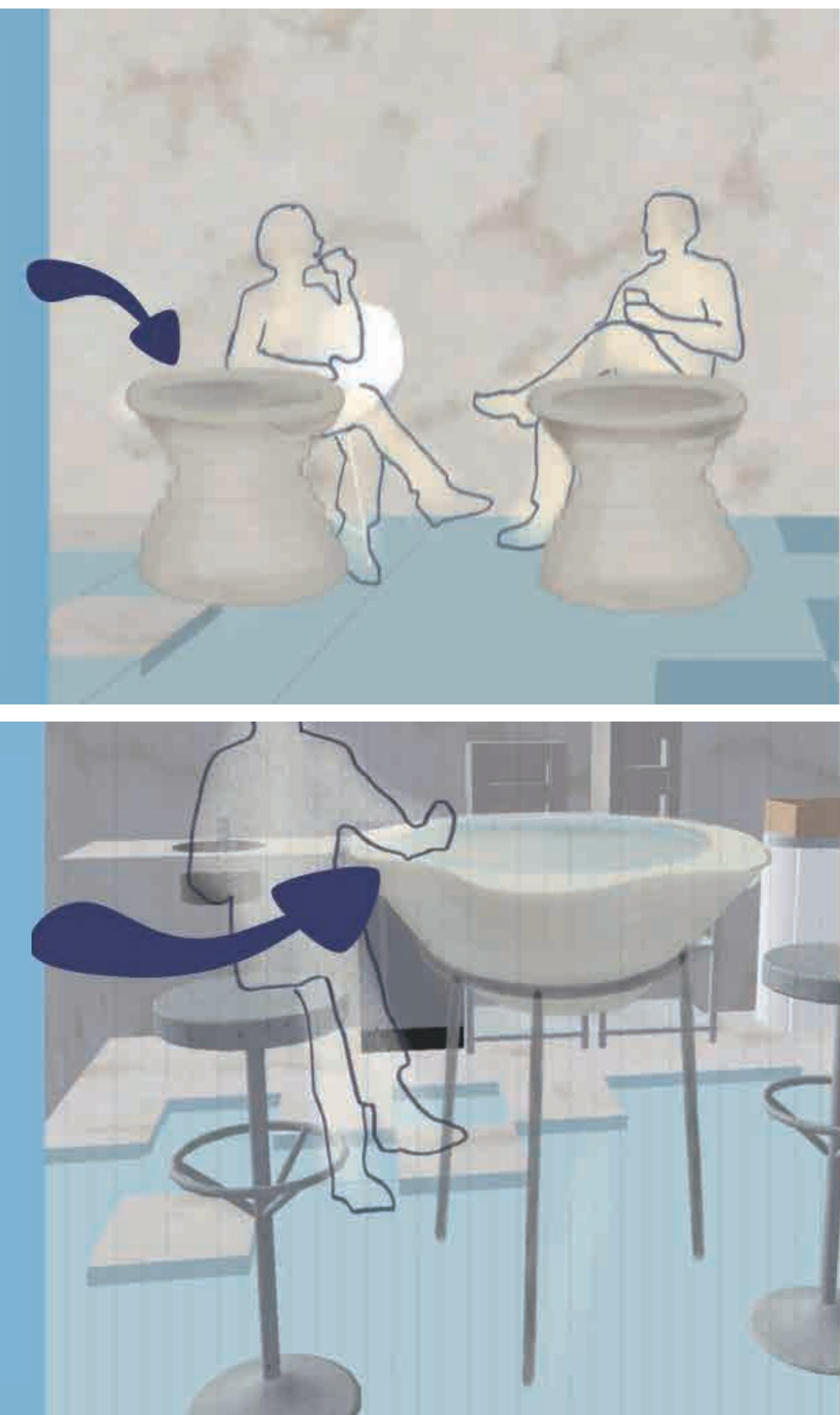
コーヒーテーブル

「コーヒーテーブルの天板には、最終的にアクリル板とワーロン紙を埋め込みます。ワーロン紙の輪郭の定まらない模様が、Space wasp の素材感と、リノベーションのコンセプトに調和します。コーヒーを飲みながら穏やかに過ごせるインテリアを目指しました。」



「ハイテーブルの天板には最終的に泡状のアクリル板を埋め込みます。YURAGI というコンセプトのもと、不規則で動きを感じさせる表情を探り、素材の検討を重ねました。

透明感のある素材を用いることで、軽やかな印象が生まれます。」



## 19 さいごに

自主施工や企業との新たな協働を通して、設計から施工までを一貫して経験することができた。大変な場面も多かったが、実際の現場と向き合いながら空間をつくり上げていくプロセスは新鮮であり、実際に使用される場所を自分たちの手で形にできたことに大きな感動を覚えた。この経験を通して、ものづくりにおける責任や人との関わりの大切さを実感し、今後の人生に活かしていきたいと思う。

本計画の実現にあたり、ご協力・ご助言をいただいたシンニチ工業の皆様をはじめ、関係者の方々に心より感謝したい。

